

お申し込み、お問い合わせはこちらから

オンラインサービスの
セット商品に関して

※ご利用には手続きが必要です。書籍納品時に案内書を同封しますので、手続きをお願いします。弊社にて利用登録が完了しましたらメールでお知らせします(最大1週間かかる場合があります)。
※ご利用期間は1年間です。書籍の発送日を起点にして1年後の翌月末が利用期限です。※アクセス権は1部の購入に対し1名分です。複数名の利用をご希望の場合は法人プランとなります。

日経BP総研 未来ラボ 新刊レポートお申込書 ※ご希望の数量とお届け先をご記入ください。

【NEW】メガトレンド2020-2029 ICT融合新産業編【書籍のみ】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 276570	[]部	【NEW】メガトレンド2020-2029 自動車・エネルギー編【書籍のみ】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 276560	[]部
【NEW】テクノロジー・ロードマップ2020-2029 全産業編【書籍のみ】	本体価格 600,000円+税 商品番号: 276110	[]部	【NEW】テクノロジー・ロードマップ2020-2029 全産業編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 900,000円+税 商品番号: 276130	[]部
【NEW】エンターテインメント・ビジネスの未来2020-2029【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 276500	[]部	【NEW】エンターテインメント・ビジネスの未来2020-2029【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 276520	[]部
【NEW】エネルギーの未来2020-2029【書籍のみ】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 276580	[]部	【NEW】エネルギーの未来2020-2029【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 675,000円+税 商品番号: 276600	[]部
【NEW】人工知能の未来2020-2024【書籍のみ】	本体価格 600,000円+税 商品番号: 275980	[]部	【NEW】人工知能の未来2020-2024【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 900,000円+税 商品番号: 276000	[]部

日経BP総研 未来ラボ 既刊レポートお申込書 ※ご希望の数量とお届け先をご記入ください。

メガトレンド2019-2028 全産業編【書籍のみ】	本体価格 600,000円+税 商品番号: 269280	[]部			
テクノロジー・ロードマップ2019-2028 医療・健康・食農編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 273250	[]部	テクノロジー・ロードマップ2019-2028 医療・健康・食農編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 273260	[]部
テクノロジー・ロードマップ2018-2027 ICT融合新産業編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 266960	[]部	テクノロジー・ロードマップ2018-2027 ICT融合新産業編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 267170	[]部
テクノロジー・ロードマップ2018-2027 自動車・エネルギー編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 264240	[]部	テクノロジー・ロードマップ2018-2027 自動車・エネルギー編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 267180	[]部
テクノロジー・ロードマップ2017-2026 金融・マーケティング流通編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 258380	[]部	テクノロジー・ロードマップ2017-2026 金融・マーケティング流通編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 267200	[]部
未来市場2019-2028【書籍のみ】	本体価格 600,000円+税 商品番号: 270630	[]部	未来市場2019-2028【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 900,000円+税 商品番号: 270940	[]部
モビリティの未来2019-2028【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 273330	[]部	モビリティの未来2019-2028【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 273340	[]部
日本の未来2019-2028 都市再生/地方創生編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 273360	[]部	日本の未来2019-2028 都市再生/地方創生編【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 273370	[]部
医療・健康ビジネスの未来2019-2028【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 271290	[]部	医療・健康ビジネスの未来2019-2028【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 271310	[]部
ロボットの未来2019-2028【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 271320	[]部	ロボットの未来2019-2028【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 271340	[]部
フードテックの未来2019-2025【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 271210	[]部	フードテックの未来2019-2025【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 271230	[]部
ゲームチェンジングテクノロジー2019【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 271350	[]部	ゲームチェンジングテクノロジー2019【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 271370	[]部
人と仕事の未来2019-2028【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 268340	[]部	人と仕事の未来2019-2028【書籍とオンラインサービスのセット】	本体価格 450,000円+税 商品番号: 271640	[]部
IoTの未来2018-2027【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 266970	[]部	スポーツビジネスの未来2018-2027【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 264290	[]部
グローバル・メガトレンド2017-2050【書籍のみ】	本体価格 800,000円+税 商品番号: 258390	[]部	未来事業2018実践編【書籍のみ】	本体価格 300,000円+税 商品番号: 266980	[]部

WEB <https://nkb.jp/milab>

FAX **03-5696-3370**
24時間受付 申込書に、必要事項をご記入のうえ、そのままファックスでお送りください。

TEL **0120-21-0546**
日経BP読者サービスセンター
(TEL:03-5696-6000 年中無休9:00~22:00)
■申込書に記載のお申し込みコードをお伝えください。
■電話でもクレジットカード支払いを承ります。

お名前	(姓) _____ (名) _____ ※必ず個人名(フルネーム)をご記入ください。	フリガナ	(セイ) _____ (メイ) _____
ご送付先	〒 _____		
会社名	□ 会社(上記で記入の住所が会社の場合)印を入れてください。 ※マンション・ビル名・部屋番号様方もお忘れなくご記入ください。		
TEL	ご所属 お役職	FAX	
E-mail アドレス	@ _____		

お申し込みコード 30-309011

日経BP

■お電話でお申し込みの場合はオペレーターにお申し込みコードをお伝えください。
■お支払いは、商品同封の払い込み用紙をお願いします。クレジットカード払いも承ります。
■お申し込み内容により、クレジットカードもしくは銀行振込(前払い)をお願いする場合があります。予めご了承ください。
■この商品の返品・キャンセルはお受けできません。(返品不可)
■ご記入いただいた個人情報は、日経BP「個人情報取得に関するご説明」および「日経IDプライバシーポリシー」に基づき管理します。サービス登録により、日経BPほか日経グループ各社や広告主からのお知らせ等をお届けする場合があります。
日経IDプライバシーポリシーおよび利用規約の詳細は、次記のURLをご確認ください。(https://nkb.jp/register)
■価格は【本体価格+税】で国内料金です。
■商品に関しましては、お申し込みから3~7日でお届けします(年末年始除く)。
■予約受付中の商品は、発行日以降順次お届けします。
■お届けは日本国内に限ります。
■今後弊社からのご案内が不要な場合は、お手数ですが弊社サービスセンターMPS係(電話:0120-255-255/土日・祝日・年末年始を除く9時~17時)までご連絡ください。お手続きURL <https://nkb.jp/qa-dm>

人の
はなしを
聞かない
かどう
よ。



Mirai

イラスト: 沢野ひとし

「答えが出ないこと」 が答えになる

社会の効率を高めることを大きな目的とするAI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)。その導入が進む未来では、むしろ非効率を求める人々の欲望がくつきりと浮かび上がってくる。人口爆発が進み、フロンティアを失った未来社会では、世界が日本的な「道」の概念の重要性に気づく——。いわゆる専門家の視点や常識から離れ、社会のメガトレンドをフラットな視座で観察し続ける人々がいる。そうした人々が考える未来の姿は刺激的だ。IT企業の役員を務めながら、『ニムロッド』で第160回芥川賞を受賞した作家・上田岳弘氏と、『メガトレンド』シリーズ著者の未来学者・川口盛之助氏が語り合う、「人間」「社会」「テクノロジー」の未来像に耳を傾けてみよう。

(高橋史忠=日経BP総研 未来ラボ所長)

—— 上田さんは、作家と企業経営者という2つの顔をお持ちです。小説の執筆とビジネスパーソンとしての活動で、未来を考える視点に違いはありますか。

上田 あまり違いはないですね。企業人としては「来月の売り上げをどうするか」を考える割合が半分程度、「来年どうするか」が2割、「将来どうなるか」が3割くらいでしょうか。小説を書く際に「人類や社会がどうなっていくか」について考えるのは、やはり3割くらい。最終的に文章に落とし込む必要があるので、作家活動でも未来のことを考える割合はビジネスと似てきます。結局、自分が得意なリソースの使い方でない、ビジネスでもうまくいかないし、作品もまとまらないということなのだと思います。

川口 未来を考えるという観点では、創作活動が難しくなっていますか。未来や夢を語る際のロマンを世の中と共有しにくくなっているように思うので。

上田 ええ。そう思います。

川口 例えば、宇宙人像は、その時代の科学観や社会観を表しているという説があります。SF作品で宇宙人といえば、昔は「UFOに乗って地球を襲ってくる」という分かりやすい構図でした。宇宙人が人類に脅威を与える「恐ろしいもの」だったからでしょう。それが冷戦時代くらいから変わり、「実は政府が宇宙人と結託している」といった陰謀論的な設定が目立つようになりました。

今となっては、多くの人は宇宙人の話をされてもピンとこなくて、すぐ冷めている。宇宙人だけではなく、昔は「森で写真を撮ったら、妖精が写っていた」という類の話にワクワクしたものです。でも、もはや幻すら誰も見なくなってしまった印象ですね。

上田 ITの発展で、情報自体は蓄積されているはずなのに、むしろ揮発性が高まっているように感じる感じが大きいと思いま

す。インターネットで流れてくる情報があまりにも多いので、ほとんどのことについてはスルーするしかない。それがこの時代の処世術になっていて、スルーしきれないときに初めて何かを考えるようになっていきます。そうしないと、思考のリソースが足りなくなるからでしょう。

川口 そうですよ。写真や動画の加工が容易になり、どんどんネット上に流せるようになった結果、もはや宇宙人や妖精は見えなくなりました。ネット上には大量の似たような写真や動画が存在していて見飽きていることに加え、そもそも「どうせ、フェイクニュースだろ、これ」と思いますから。

最近、ソフトウェアの「バグ」や「ウイルス」、「ホームグロウン・テロ」のような内なるものをむしろ恐ろしいと感じるようになってくる。科学観や社会観を反映する「恐ろしいもの」が、デジタルを中心とした、より身近

で具体的かつ日常的なテクノロジーへと変化しています。

—— 上田さんは『ニムロッド』(芥川賞受賞作)で、デジタル技術が生み出した仮想通貨を取り上げています。

上田 純文学は、新しいことに挑戦するミッションを帯びた分野です。だから、どうすれば新しくなるのかを常に考えていますが、本当に新しいかどうかは悪魔の証明なので、絶対に新しいとは言えない。世の中すべての小説に目を通せるわけにはありませんから。もしかしたら、自分が書いたものと言いつつ同じ作品が存在している可能性もゼロではありません。

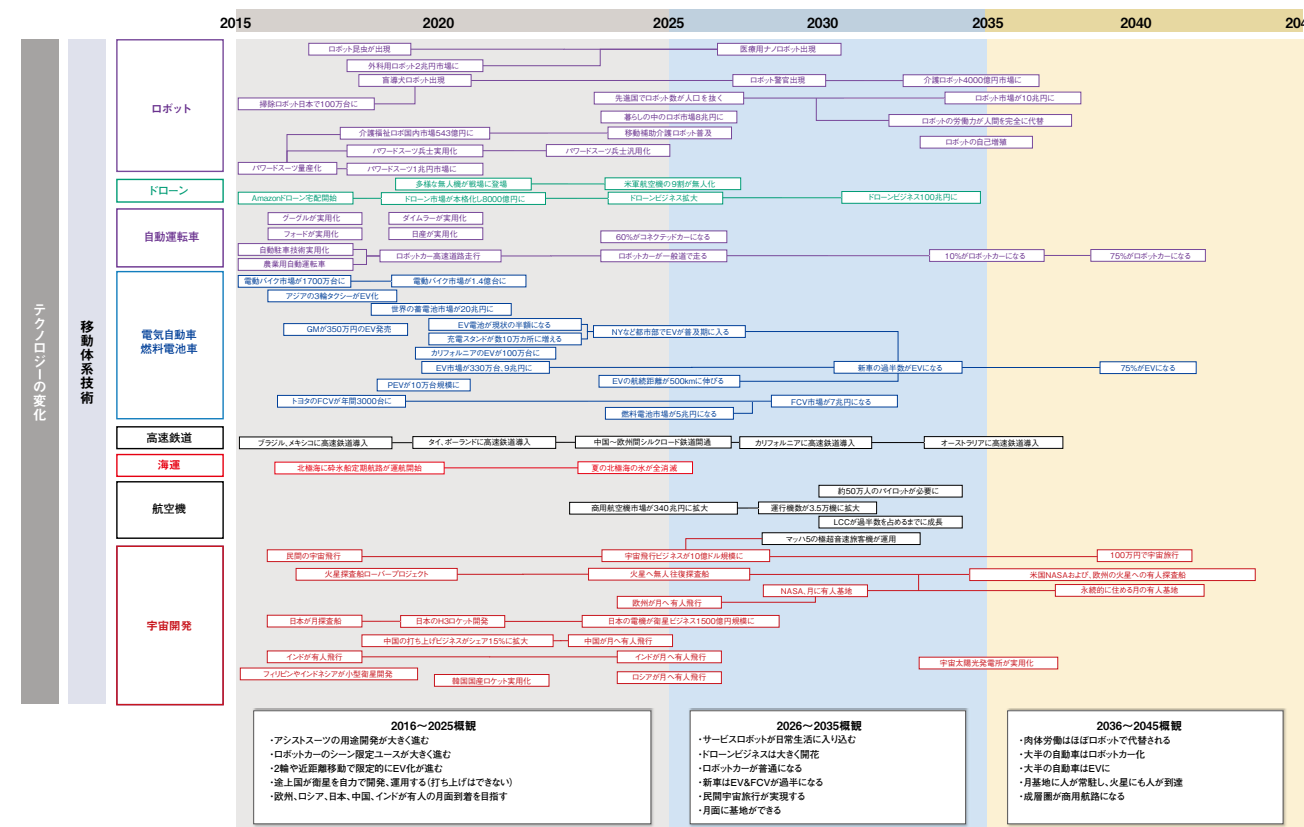
仮想通貨は登場してから10年ほどのテクノロジーで、提唱者の名前は「サトシ・ナカモト」。この名前が人物が登場する仮想通貨ものの小説を書けるのは日本人だけ

じゃないですか。日本の作家がやってなければ、誰も同様の作品は創作してないはず。そこまでは調べられるので新しいものだという証明は一応できると思っているのですが、そんなところまで考えて創作する人は珍しいかもしれません。

川口 確かに。ニムロッドは設定自体で勝負あったという感じがしますね。

おっしゃる通り、新しいことを見つけるのは難しくなっていると思います。特にネットの広がりによって、「面白いものを発見したぞ!」ということを簡単に自慢できなくなりました。例えば、写真を整理しながら「これは面白い」と思うものを見つけても、ネットで探すと、大抵は同じことに気づいている人がいます。しかも、1人、2人ではなく、多くの“同志”が見つかる。あつという間に情報を探せることがうれしい一方で、がっかりもします。自分が発見した新しい法則として発

図1 20XX年予測情報まとめ(テクノロジーの変化:移動体系)



出所:日経BP『メガトレンド2019-2028 全産業編』より

表したいと思っても、一瞬で企画が潰れてしまうわけですから。「今から考えよう」と思ったことの答えが簡単に見つかってしまうので、新しいことを考えるエネルギーが根こそぎ絶たれてしまいますよね(笑)。

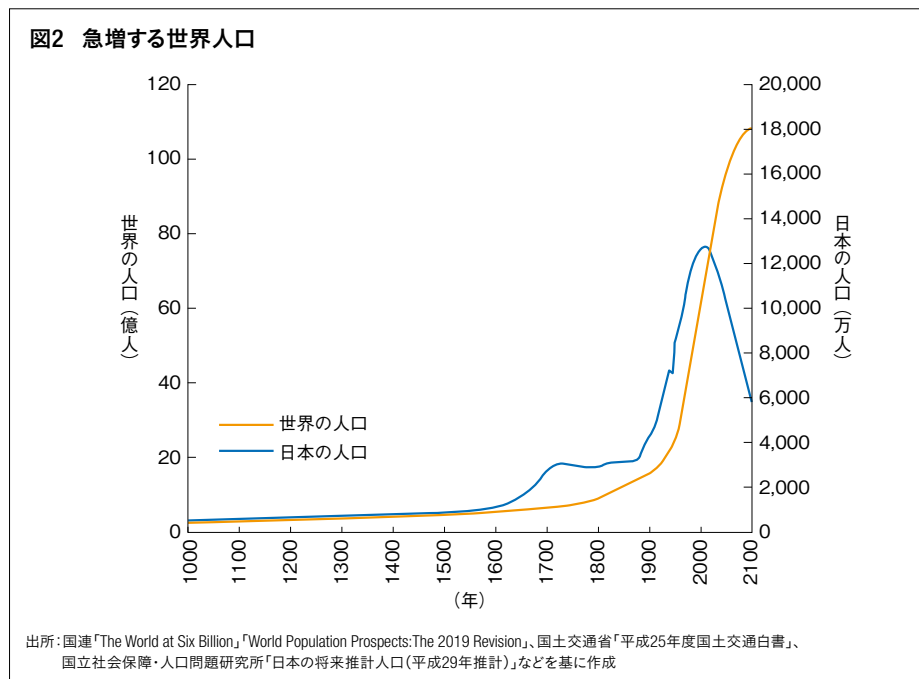
—— かつてのSF作品は「宇宙に出て行って戦う」ような大冒険ものが多かったように思いますが、最近は感情や知性といった人間の内面にデジタル技術がどう絡んでいくかをテーマにしたものが目立ちます。

上田 宇宙については「宇宙に出て行くより前にやるべきことがあるでしょう」という議論の方に進んでしまいがちですね。特に日本では、その傾向が強いように感じます。新しいフロンティアが見えない時代なので、世の中を歩かせようという社会的な圧力が働きにくくなっているのかもしれない。

川口 世界的に見ると、テスラのイーロン・マスクCEOのように功成名を遂げた経営者は、フロンティアとしての宇宙に関心を持つようになっています。背景には、世界的な人口急増があるのでしょう。20世紀に入ってから人口爆発によって、地球上の生存量に飽和感が出てきた。それを解決するために宇宙というフロンティアを切り開こうというわけです。ただ、今やそれを実行するのはNASA(米航空宇宙局)ではなく、ますます進む格差社会の中で、極端に富を集めた人々による使命感になっています。

デジタル技術によって生まれた仮想空間は、もう一つのフロンティアです。21世紀初頭からのGAF(A:Google-Amazon.com-Facebook-Apple)の台頭は、デジタル空間にフロンティアを求める流れを象徴していますよね。ここにきて、仮想空間だけで閉じた世界には限界があるという肌感覚が広がり、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)、IoTに関連した開発が活発になっています。

上田 通信速度と演算能力の向上を背景



に、現実世界全体を仮想世界と結びつけ、新しいフロンティアをつくり出そうということですね。一方で、閉じた世界の中で新しい文化を発展させる流れもあるように思っています。江戸時代の日本では、鎖国によって独特の新しい文化が生まれました。完全な閉鎖回路の中で新しいことが生まれるという方向性は、今の世界を考えると実は先進的だったのではないのでしょうか。

川口 それは面白いですね。世界の人口が100億人になり、フロンティアが減っていくと、実は地球全体が閉鎖系に向かっている、より人の内面に焦点が当たるようになります。そのことに世界が気づき始めていて、日本はすでに江戸時代に体験しているよ。

上田 歴史に「もし」はないですが、江戸時代の鎖国をさらに300年くらい続けていたらどうなったのか、ちょっとロマンを感じますね。地理的なフロンティアが存在しない閉鎖系の中で「型」が生まれて、その型の中で進化しようとする圧力が新しい文化を生み出したということですから。

川口 ええ。型の追求は、何かを進めるプロセス自体の目的化につながります。日本で「〇〇道」と呼んでいるものですね。

閉鎖系の社会では、お客さんの数が決まっています。ビジネス視点で単純に考えると、勝ち負けのために効率を追求するレッドオーシャンまっしぐらになってしまう。そのような発散系を目指す、閉鎖系の中では早晚破綻してしまうので、プロセスの中の鍛錬やこだわり、美しさを目的化するようにしていく。それが「道」ということでしょうか。日本はカラオケですら「道」にしてしまう。閉鎖系の社会を体験した国ならではのうまい考え方だと思います。

上田 文章を書いたり、絵を描いたりといった勝敗の区別がはっきりしないアート系の活動については、もともと「道」の要素と親和性が高い。片や、勝敗がはっきりしているさまざまな活動も今後は「道」を求める方向に転化していくかもしれません。例えば、将棋や囲碁のようにAIが人間より速く答えを見つけてしまうようになると、勝敗に至るプロセスを目的化する「道」の傾向がより強まっていきそうです。

川口 ITやAIで人間の活動におけるタスクをどんどん効率化していくと、「余った時間をどうするか」という課題が生じます。それによって趣味の世界、ディープなファンとし

ての活動が、生活者にとってこれまで以上に重要になっていくでしょう。例えば、レアもののキャラクターグッズを集めたり、何かの行列に並んだり。

その世界では「効率」は野暮なことです。趣味の世界で効率を追求し始めたら、急に冷めてしまいますよね。達成感を求めているわけですから、むしろ効率が悪い方がいいのです。ある意味、「人間は効率が悪いことをしたかったのだ」ということが分かってきたと言えるのではないのでしょうか。つまり、生きること自体が「道」であると。

上田 なるほど。ビジネスの世界では、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)が大きな注目を集めています。「人件費が削減できる」といった効率化の方向です。一方で、余った時間の欲望を向ける先へのニーズも高まっていくわけですね。そこでは「分からないこと」「答えが出ないこと」というブラックボックスの要素が大切なんだろうと最近感じています。

小説でも、登場人物が物語の後にどうなったかなど、作品中で定義しきれないコンテキストが存在します。つまり、読者が作品にどう触れるか、行間をどう読むかによって変

わるブラックボックスの部分です。作家は、作品中にそれを作為的に埋め込んでいるかもしれないし、無意識でやっているかもしれない。その部分があるから、作品が存在する前と後で、その作品に触れた人や社会に変化が生じるのだと思います。

今後、そういったビフォー・アフターの差を含めてAIで解析して演出できるようにになると、単なるRPAではない人間とコンピューターの新しい関係性が生まれてくるのでしょう。果たして、テクノロジーがそこまで進化するかどうかは分かりませんが。

川口 五感を通したすべての体験、つまり人間の内面と外面に関するすべての情報の入出力が自分を自分たらしめています。50年生きていたならば、50年分の経験によって人間は随時変わっているわけです。

小説のすごいところは、そうした長年の経験の中で出来上がった人の意識や考え方を大きく変えてしまう可能性があることですね。小説に限らず、政治家の演説などもそうでしょう。優れた演説であれば、たった1行の言葉で多くの人生を変えてしまうかもしれない。

上田 自分が生み出した作品によって誰か

の人生はもちろん、社会が変わることによって、作家としてはロマンを感じます。作品が人を変えて、結果としてその人が社会を変えるわけですけど、本当にすごい、何か奇跡的なことに思えて。

川口 人文科学だけでなく、自然科学でも同じです。ニュートンやアインシュタインのように宇宙の法則を発見し、体系化したとなると、それによる社会のビフォー・アフターの差分はものすごく大きくなりますよね。

—— 今はテクノロジーの発展が加速度的になっていて、それが人間や社会の形を変える大きな要素になっています。

川口 それはそうですが、人間や社会を変えるテクノロジーはデジタルだけではないという視点も大切だと思います。AIやRPA、IoTのようなデジタル技術はもちろん重要ですし、頑張るに越したことはありませんが、ある意味、先進国でも新興国でも多くの国で開発できてしまうテクノロジーです。

一方で、実は、デジタル化する対象物となるリアルを扱うアナログな技術の方が圧倒的に裾野が広い。日本の企業には、他の国が手を引いてしまったり、すでに完熟したと思われるアナログな技術が多く残っている。未来を考える際には、デジタル化されていない秘伝のタレ的なテクノロジーについてもきちんと評価した方がいいでしょう。今後は回り回って、みんなが手がけていないそうしたテクノロジーに関心が集まるようになると思います。デジタルだけではテクノロジーが進化しないので。

上田 そういう技術が日本に残っているのは、なぜなのでしょう。

川口 先ほど話した「道」につながっているのかもしれないですね。どうしても少量多品種になるので、現状はあまりもうからない。でも、作ること自体を目的にしているところがあるので残っている。200年以上続く会社

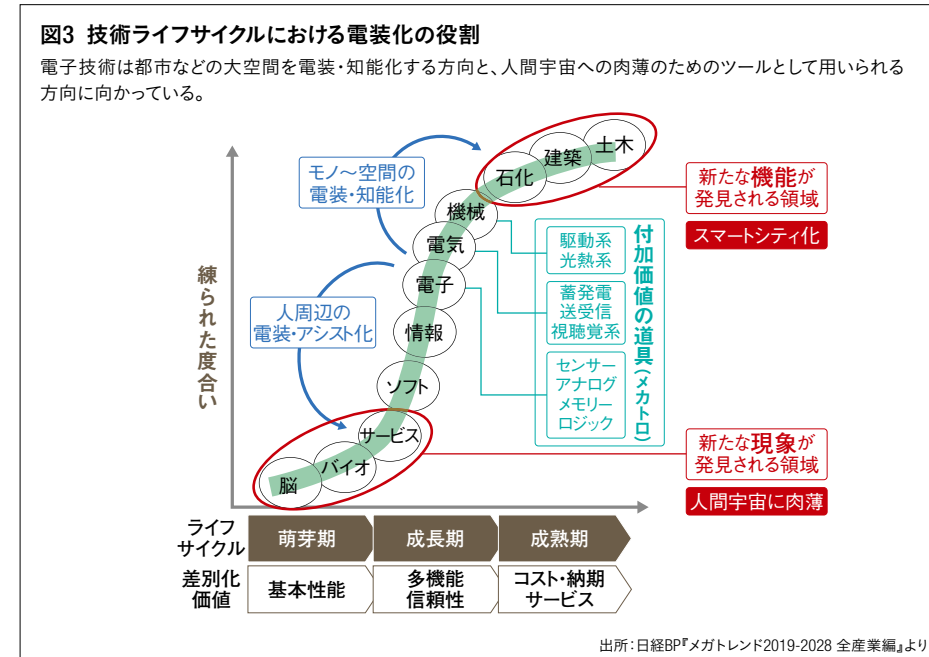
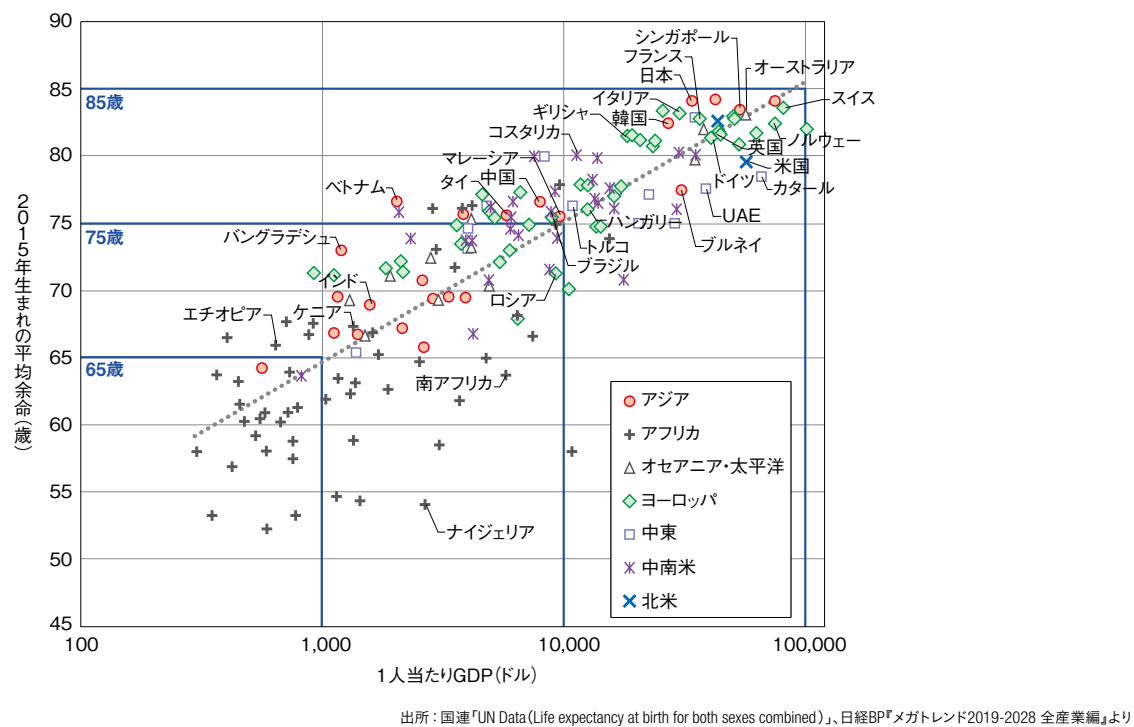


図4 各国の1人当たりGDPと平均寿命



が日本にはものすごく多いというデータがあります。それも会社を生き延びさせることが「道」になっているからでしょう。このことをマイナスに捉える意見は多いですが、むしろプラスに考えた方がいいと思いますね。育成に手間のかかる技術領域が、最近では「ディープテック」と称されて再評価されつつあります。

上田 テクノロジーによる人間や社会への影響という点では、テクノロジーの発展によって生まれる倫理的な空白地が気になっています。川口さんは『メガトレンド』で「1兆円用意できれば135歳まで生きられるようにな

る」と予測されていますが、例えば、平均寿命が50歳と100歳の時代では倫理感が変わると思うんです。

川口 資産をつぎ込むほど長生きできるとなると、まずお金の使い方が変わってしまう。それも10年、20年ではなく、100年、1000年延びるなら、もはや「子孫」は不要になりますから絶対変わります。ただ、平均寿命は上がっているけれど、長寿の世界記録は昔からほとんど伸びていないという事実もあります。生命体としての寿命の限界があって、それに平均寿命が追いついてきたというこのようです。

上田 面白いですね。作家としては、テクノロジーの発展によって生まれる倫理的な空白地と、それに対応した美の世界のようなものを書いてみたい。

川口 もし、平安時代から1000年生きていく人がいたら、その人が感じる美は今の常識とはだいぶ違うでしょうね。相当ひねくれているでしょうから。

上田 確かに。逆に、何かの趣味の世界で、ものすごいディープなファンになっているかもしれませんよ。滅びた文明や勢力をキャラクターグッズで思い起こすような(笑)。



上田岳弘(うへだ・たかひろ)

1979年兵庫県生まれ。早稲田大学法学部を卒業後、IT企業の創業に参画し、現在は役員を務める。2013年『太陽』で第45回新潮新人賞を受賞しデビュー。2015年『私の恋人』で第28回三島由紀夫賞、2018年『塔と重力』で第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2019年『ニムロッド』で第160回芥川龍之介賞を受賞。著書に『太陽・惑星』『私の恋人』『異郷の友人』『塔と重力』『ニムロッド』『キュー』がある。



川口盛之助(かわぐち・もりのすけ)

盛之助代表取締役社長。『メガトレンド』シリーズ著者。1961年兵庫県生まれ。慶應義塾大学工学部卒、イリノイ大学修士課程修了。戦略コンサルティングファームのアーサー・D・リトルでアソシエイト・ディレクターを務めた後に株式会社盛之助を設立。国内のみならずアジアや中東の政府機関からの招聘を受け各種コンサルティングを行う。著書に『オタクで女の子を国産のモノづくり』『世界が絶賛する「メイド・バイ・ジャパン」』『日本人も知らなかった日本の国力(ソフトパワー)』など。morinoske.com

(写真:北山宏一)

5年後、10年後、あなたの会社は何をしていますか

競争環境ががらりと変わる、多分野を巻き込んだ大きな変革が起ころうとしています。この変革の波の中で、新規事業をどのように企画立案していくか。既存事業モデルをどう見直し、利益を上げていくか。事業開発を推進していく上で、まずやるべきことは、市場や社会の「未来像」を描くこと。私共「日経BP総研 未来ラボ」はそう考えます。今回、2020年版として新たなレポートをラインアップしました。5年後、10年後の市場・産業・技術の変革を新しい視点で予測しています。経営戦略やR&D戦略立案、新規事業創出の「未来予測ツール」としてご利用ください。

REPORT INDEX

メガトレンド2020-2029 ICT融合新産業編

ICTが引き起こす既存産業の融合そして新たな産業の誕生 10の産業の10年後の姿を描き出す

NEW

メガトレンド2020-2029 自動車・エネルギー編

自動車・エネルギー産業に影響を与えるメガトレンドを抽出し「100年に一度の大変革」の先を読む

NEW

メガトレンド2019-2028 全産業編

10年後までの変化を読み切り戦略策定の基礎となる 社会と全産業分野の未来像を提示する

テクノロジー・ロードマップ2020-2029 全産業編

市場ニーズを生む122技術の進化を予測 R&D戦略立案に「使える」技術予測の決定版レポート

NEW

テクノロジー・ロードマップ2019-2028 医療・健康・食農編

テクノロジー・ロードマップ2018-2027 ICT融合新産業編

テクノロジー・ロードマップ2018-2027 自動車・エネルギー編

テクノロジー・ロードマップ2017-2026 金融・マーケティング流通編

エンターテインメント・ビジネスの未来2020-2029

先端技術とエンターテインメントの融合 巨大IT企業が塗り替える未来像と新たなビジネスチャンスを読み解く

NEW

エネルギーの未来2020-2029

エネルギー市場の未来を描き出し 電力自由化の今後10年を展望 各プレイヤーの進むべき道を提示する

NEW

人工知能の未来2020-2024

人工知能がもたらす市場の変化を細大漏らさず予測

NEW

未来市場2019-2028
モビリティの未来2019-2028
日本の未来2019-2028 都市再生/地方創生編
医療・健康ビジネスの未来2019-2028
ロボットの未来2019-2028
フードテックの未来2019-2025

ゲームチェンジングテクノロジー2019
IoTの未来2018-2027
人と仕事の未来2019-2028
スポーツビジネスの未来2018-2027
グローバル・メガトレンド2017-2050
未来事業2018 実践編

メガトレンド2020-2029 ICT融合新産業編

ICTが引き起こす既存産業の融合 そして新たな産業の誕生 10の産業の10年後の姿を描き出す

- 著者：川口 盛之助(第一分冊)、谷島 宣之+桑原 里恵(第二分冊)
- 2019年12月25日発行予定
- レポート：A4判、約500ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 書籍価格：450,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

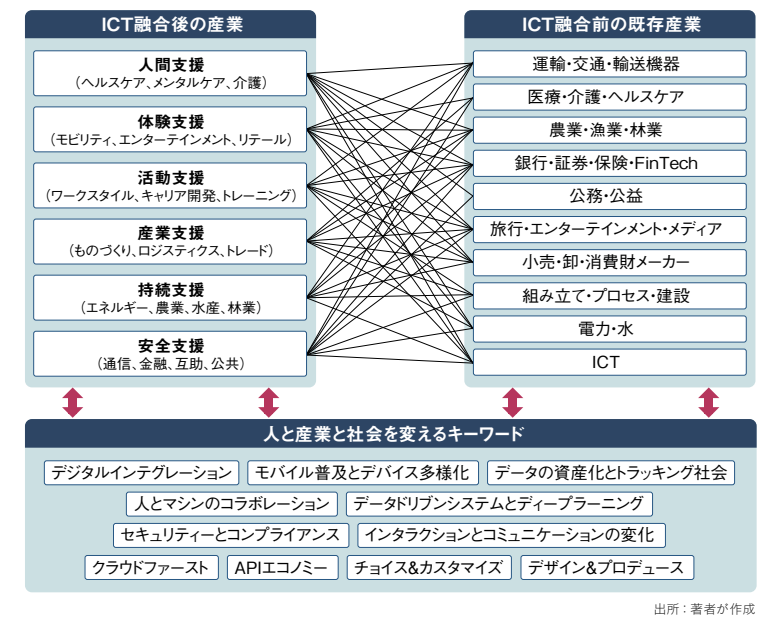


『メガトレンド2020-2029 ICT融合新産業編』はICT(情報通信技術)/デジタルインテグレーションによって変わる産業群、生まれる産業群の10年後の姿を展望するレポートです。ICTによって人の活動と社会が変わり、それによって産業と別の産業の融合が起きます。まず、序章から第10章で、『メガトレンド2019-2028 全産業編』の中からICTに関わりが大きい22テーマを抜粋し、人、産業、社会を変える重要トレンドを提示します。続く第11章から第15章で、ICTがもたらす人の活動と社会の新たな姿を展望、新たな社会基盤の上で起きる既存産業の融合と新産業の誕生を予測します。

無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



ICT融合新産業の全体像



メガトレンド2020-2029 ICT融合新産業編 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

序章

メガトレンドの読み方：本文構成について

- 人口予測と経済予測
- 2019～2045年の「未来年表」
- (1)テクノロジーの変化①：移動体系技術
- (2)テクノロジーの変化②：電子・情報系技術
- (3)テクノロジーの変化③：医療・バイオ系技術
- (4)資源や環境問題の変化
- (5)マクロな政治～経済課題の変化
- (6)未来年表まとめ：10年ごとの変化概観
- (7)二つの矛盾とシナリオ・オプション
- 全体の思想について
- (1)課題から落とす
- (2)三つの科学で考える
- (3)ライフサイクル(主役交代と成熟の視点)で考える

第1章

先進国の本格的な老衰：成熟がもたらす新市場

- 総論
- ベビーブーマーの老衰
- 埋蔵金1800兆円の使い方
- 宿命の少子化とシンプルなその対策
- 遠因はメカトロニクスの成熟化
- 自治体やインフラも老朽化
- 個人から大企業まで含めた対応の方向性
- シニア支援
- 教育ビジネス
- オランダ型農業立国
- アナログ技術への回帰

第2章

新興国の成長ラッシュ：日本企業躍進の起爆剤

- 総論
- 新興国デビューの歴史
- 重大要因がメカトロニクス技術の成熟化
- 成長サイクルの圧縮化
- インフラ輸出の全体像

国のライフサイクルと外貨を稼ぐ産業

- インフラのゴールとは
- サービス収支
- 旅行収支
- 所得収支
- リバースイノベーション化
- 都市インフラ輸出の拡大

第3章

成長ラッシュの弊：速すぎる変化がもたらす負の現象

- 総論
- 後発ほど加速する成長速度
- 高速成長で生じるゆがみ
- 成長優先で後回しになる課題とは
- ユースバルジとBOPビジネス

第4章

市場の強大化：国家機能にも及ぶその影響

- 総論
- すべてがオフショア化
- 国家を超えるグローバル市場の影響
- 都市が特区の単位で戦う時代へ
- 通貨安競争や税制優遇競争
- 財政負担に苦しむ成熟国家の地方自治体
- 官民公の境界が融合
- 行き過ぎた市場原理への抵抗
- 開発～製造～消費のグローバル化

第5章

「消費が美德」だった時代の終焉：サステナブルな価値観の台頭

- 総論
- 力学の錯綜する環境問題
- サステナブルな時代に至った4つの背景
- 富裕化とエネルギー消費
- 地球温暖化問題の全体構造

●エネルギー効率向上

第6章

ポスト工業化社会の実像：「人の心を算出する」機能の商用化

- 総論
- サービス化は長い近代化プロセスの終着駅
- 製造業からサービス産業化するときの8つのパターン
- 目的的手段化
- 脳科学との連携
- 脱売り切り消耗品化
- 保守運用ビジネス～BPO
- 保険・金融業化
- ファブライト開発へのシフト
- マーケティング手法の劇的進化

第7章

リアルとバーチャルの相互連動：脳から都市までスマート化が加速

- 総論
- ヒト・モノ・空間の電装化とスマート化
- リアル世界にタグを貼るという大脳の長年の夢
- スマートコミュニティも拡張現実
- 脳直結コミュニケーション
- ニアフィールドビジネス
- デジタルマニュファクチャリングは仮想現実ものづくり端末
- AR(拡張現実)
- 自動運転車
- おもてなしサービス
- 「脳直」コミュニケーション
- デジタルマニュファクチャリング

第8章

会社も働き方も変わる：一所一生命からオンデマンド機能提供型へ

- 総論

閉鎖系・秩序系に好適だった日本式経営

- ノマドワーカー
- 社会貢献というモチベーション
- NPOがイノベーション創出起点になる
- オープン&シェア：所有より利用、競争より共創
- デジタルハイテク分野のオープン化
- 生産財インフラは仮想化とシェアリング
- いじりやすい構造
- 多様なキュレーターとプロシューマーが出会う場所
- パトロンへの財の余力から民の知の余剰へ
- ビジネスプラットフォーム設計

第9章

超人化する人類：生態と進化の人工操作への挑戦

- 総論
- 生命体の夢は永遠の命
- 人間の心身に肉薄する3系統の技術群
- 筋肉機能の補完と拡張
- 脳インタフェース
- バイオテクノロジーの別用途：動植物の品種改良
- ロボティクスの発達
- ライフサイエンス発達の影響
- 人体強化(非生物系技術)

第10章

人間らしさと幸福：変わる労働と休息の関係

- 総論
- 国の成熟と国民の幸せ
- 幸せな状態とは何か
- 幸せになる5つの条件をライフハックする
- 幸せになるための必要十分条件
- 人間らしさや幸せとビジネスチャンスの関係
- 幸福とお金の関係(依存症ビジネス)
- 幸福度の計測

第11章

「ICT融合新産業」とは何か：デジタルインテグレーションによる「ことづくり」

- 「ICT融合新産業」のコンセプト
- 人と社会の変化が産業融合を促進
- 人の変化～生き方・働き方・幸福感
- 社会の変化～経済の変化～可視化とシェアリング
- ICTによるバリューチェーンの進化
- ICT融合新産業の予測方法

第12章

ICT融合新産業の全体像：人を中心に六つの産業に再定義

- 「人が生きる」ことを支える三つの新産業
- 人間支援(ヘルスケア、メンタルケア、介護)
- 体験支援(モビリティ、エンターテインメント、リテール)
- 活動支援(ワークスタイル、キャリア開発、トレーニング)
- 「社会が育つ」ことを支える三つの新産業
- 産業支援(ものづくり、ロジスティクス、トレード)
- 持続支援(エネルギー、農業、水産、林業)
- 安全支援(通信、金融、互助、公共)

第13章

ドライバーとしてのICT：人と産業と社会を変える10のキーワード

1. デジタルインテグレーション
2. モバイル普及とデバイス多様化
3. データの資産化とトラッキング社会
4. 人とマシンのコラボレーション
5. データドリブンシステムとディープラーニング
6. セキュリティとコンプライアンス
7. インタラクションとコミュニケーションの変化
8. クラウドファースト、APIエコノミー
9. チョイス&カスタマイズ
10. デザイン&プロデュース

第14章

ICT融合による産業変化：再定義される既存産業

1. 運輸・交通・輸送機器
2. 医療・介護・ヘルスケア
3. 農業・漁業・林業
4. 銀行・証券・保険・FinTech
5. 公務・公益
6. 旅行・エンターテインメント・メディア
7. 小売・卸・消費財メーカー
8. 組み立て・プロセス・建設
9. 電力・水
10. ICT

第15章

ICT融合新産業の条件：七つの構造変化

1. ICTの民主化
2. 新しい働き方、就業年齢とワークスタイルの変化
3. 流通/組織の変化
4. 垣根を越えたコラボレーション・コクリエーション
5. 個人、中小企業、スタートアップが牽引
6. システム実現スピードの加速
7. 顧客起点

※目次は変更になる場合があります。
※序章～第10章(第一分冊)は『メガトレンド2019～2028全産業編』のコンテンツを抜粋して掲載しています。第11章～15章は、第二分冊となります。

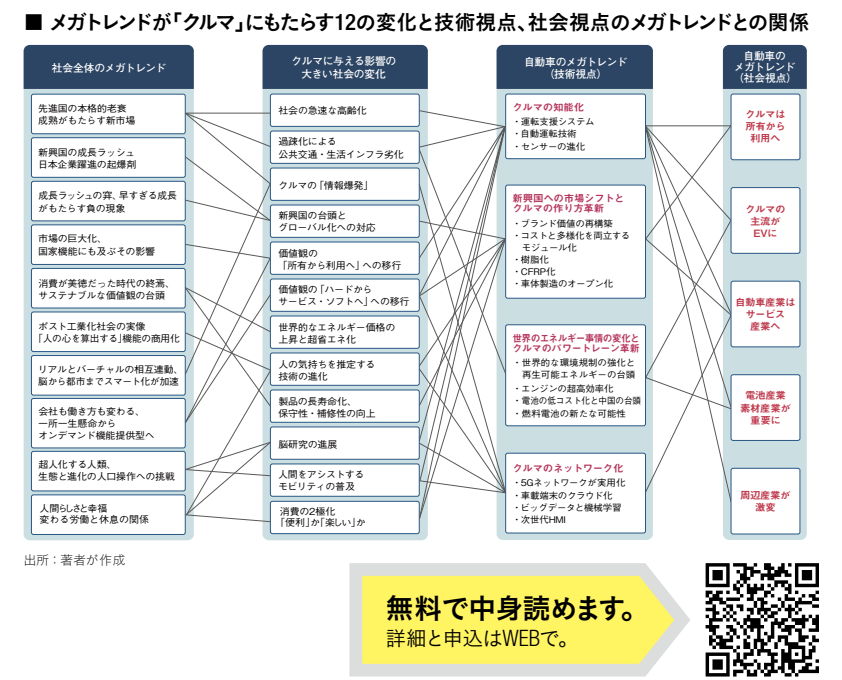
メガトレンド2020-2029 自動車・エネルギー編

自動車・エネルギー産業に 影響を与えるメガトレンドを抽出し 「100年に一度の大変革」の先を読む

- 著者：川口 盛之助(第一分冊)、鶴原 吉郎(第二分冊)
- 2019年12月12日発行予定
- レポート：A4判、約800ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 書籍価格：450,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP



『メガトレンド2020-2029 自動車・エネルギー編』は、『メガトレンド2017-2026 自動車・エネルギー編』を全面刷新し、最新の情報を基に自動車・エネルギー産業で「これから10年間に何が起きるか」を予測します。日本の超高齢化、価値観の変化、グローバル化など、自動車・エネルギー産業に影響を与えるメガトレンドを抽出、そこから導き出されるクルマの知能化、新興国への市場シフト、パワートレイン革新などの大変化を予測します。序章から第10章は『メガトレンド2019-2028全産業編』から自動車と関わりの大きい22テーマを抜粋し、大きな変化を予測します。そして第11章から第17章では、自動車・エネルギー産業でこれから起きる大変化を掘り下げ、分析します。



メガトレンド2020-2029 自動車・エネルギー編 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

序章

メガトレンドの読み方：本文構成について
人口予測と経済予測
2019～2045年の「未来年表」
(1)テクノロジーの変化①：移動体系技術
(2)テクノロジーの変化②：電子・情報系技術
(3)テクノロジーの変化③：医療・バイオ系技術
(4)資源や環境問題の変化
(5)マクロな政治～経済課題の変化
(6)未来年表まとめ：10年ごとの変化概観
(7)二つの矛盾とシナリオ・オプション
全体の思想について
(1)課題から落とす
(2)三つの科学で考える
(3)ライフサイクル(主役交代と成熟の視点)で考える

第1章

先進国の本格的な老衰：成熟がもたらす新市場
総論
ベビーブーマーの老衰
埋蔵金1800兆円の使い方
宿命の少子化とシンプルその対策
遠因はメカトロニクスの成熟化
自治体やインフラも老朽化
個人から大企業まで含めた対応の方向性
●シニア支援
●観光ビジネス
●アナログ技術への回帰
●癒やし機能への欲求

第2章

新興国の成長ラッシュ：日本企業躍進の起爆剤
総論
新興国デビューの歴史
重大要因がメカトロニクス技術の成熟化
成長サイクルの圧縮化
インフラ輸出の全体像

第3章

成長ラッシュの弊：速すぎる変化がもたらす負の現象
総論
後発ほど加速する成長速度
高速成長で生じるゆがみ
成長優先で後回しになる課題とは
●空気や水の汚染防止・浄化技術

第4章

市場の強大化：国家機能にも及ぶその影響
総論
すべてがオフショア化
国家を超えるグローバル市場の影響
都市が特区の単位で戦う時代へ
通貨安競争や税制優遇競争
財政負担に苦しむ成熟国家の地方自治体
官民公の境界が融合
行き過ぎた市場原理への抵抗
●開発～製造～消費のグローバル化

第5章

「消費が美德」だった時代の終焉：サステナブルな価値観の台頭
総論
力学の錯綜する環境問題
サステナブルな時代に至った4つの背景
富裕化とエネルギー消費
地球温暖化問題の全体構造

第6章

エネルギー効率向上
●シェールガスによる揺り戻し
●資源枯渇対策
ポスト工業化社会の実像：「人の心を算出する」機能の商用化
総論
サービス化は長い近代化プロセスの終着駅
製造業からサービス産業化するときの8つのパターン
目的の手段化
脳科学との連携
●保守運用ビジネス～BPO
●保険・金融業
●ファブライク開発へのシフト
●マーケティング手法の劇的進化

第7章

リアルとバーチャルの相互連動：脳から都市までスマート化が加速
総論
ヒト・モノ・空間の電装化とスマート化
リアル世界にタグを貼るという大脳の長年の夢
スマートコミュニティも拡張現実
脳直結コミュニケーション
ニアフィールドビジネス
デジタルマニュファクチャリングは仮想現実ものづくり端末
●AR(拡張現実)
●自動運転車
●おもてなしサービス
●デジタルマニュファクチャリング

第8章

人間らしさと幸福：変わる労働と休息の関係
総論
会社も働き方も変わる：一所一生懸命からオンデマンド機能提供型へ

第9章

超人化する人類：生態と進化の人工操作への挑戦
総論
生命体の夢は永遠の命
人間の心身に肉薄する3系統の技術群
筋肉機能の補完と拡張
脳インタフェース
バイオテクノロジーの別用途：動植物の品種改良
ロボティクスの発達
ライフサイエンス発達の影響
●人体強化(非生物系技術)

第10章

人間らしさと幸福：変わる労働と休息の関係
総論
国の成熟と国民の幸せ
幸せな状態とは何か
幸せになるための必要十分条件
幸せになるための必要十分条件
人間らしさと幸せとビジネスチャンスの関係
●幸福とお金の関係(依存症ビジネス)
●幸福度の計測

第11章

メガトレンドがもたらす自動車・エネルギーの変化
自動車・輸送機器
総論
1. クルマの将来に影響を与える12の変化
2. クルマに大変化をもたらす4つの分野
3. 4つの分野のソーシャルグラフィック的位置付け

第12章

クルマの知能化
総論
1. それは自動ブレーキから始まった
2. 自動運転の基礎となったADAS
3. 軍用技術から生まれた自動運転
4. 実用段階に入った自動運転
5. 自動運転を可能にする技術
6. 自動運転の実現を支えるセンサーの進化
7. 低コスト化が進むミリ波レーダー
8. レーザーレーダーは高機能化へ
9. 高解像度化・高感度化進むカメラ
10. 自動運転の頭脳を担う半導体の進化
11. アシストロボット

第13章

クルマのネットワーク化
総論
1. ブランド価値の再構築
2. コストと多様化を両立する新たなプラットフォーム戦略
3. 材料革新で樹脂化が進展
4. CFRPの活用とマス・カスタマイゼーション

第14章

世界のエネルギー事情の変化とクルマのパワートレイン革新
総論
1. 再生可能エネルギーの台頭で激変する世界のエネルギー事情
2. エンジンの進化は「最終世代」へ
3. 進化する電動パワートレイン
4. 電池の低コスト化と中国の台頭
5. 燃料電池車が普及する可能性はどこにあるか

第15章

クルマのネットワーク化
総論
1. 5Gが進化させる自動運転
2. 車載端末のスマホ化か、スマホの車載端末化か
3. ビッグデータと機械学習で賢くなるクルマ
4. インタフェースがクルマの価値を決める

第16章

自動車産業と社会の変化
総論
1. 完全自動運転はなぜ必然か
2. クルマの主流はEVに
3. EVと自動運転で変わる産業構造
4. 日本企業の進むべき道
5. 周辺産業も変わる

第17章

新しい自動車社会が始まる
総論

※目次は変更になる場合があります。
※序章～第10章(第一分冊)は『メガトレンド2019～2028全産業編』のコンテンツを抜粋して掲載しています。第11章～終章は、第二分冊となります。

メガトレンド2019-2028 全産業編

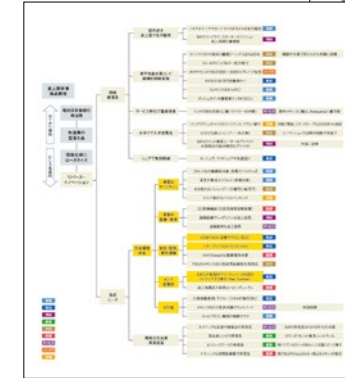
10年後までの変化を読み切り 戦略策定の基礎となる 社会と全産業分野の未来像を提示する

- 著者：川口 盛之助
- 2018年12月19日発行
- レポート：A4判、1,168ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 書籍価格：600,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

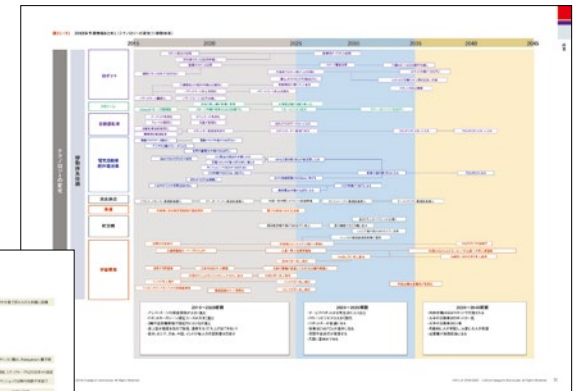


本レポートは、未来に関連する膨大な文献や統計データを人・社会・技術のライフサイクルの視点で分析し、これから起きるであろう劇的な変化を「57のメガトレンド」に集約、それらが全産業分野に何をもたらすかを提示します。また、メガトレンドに関連する「課題」と「打ち手」をイシューツリー構造にまとめ、分野別の「未来年表」、市場規模関連情報、世界の先駆的事例・アイデアに関する情報を掲載することで、事業・ビジネス化視点のコンテンツも網羅しています。構想・執筆に3年、アップデートに5年、通算8年の時間を費やし、全産業分野の変化と未来像を、約1,200ページのボリュームで描き出す「未来予測の決定版」レポートです。

※イシューツリーに記載される課題と打ち手に関して、関連度の高い産業分野のタグを貼って分かりやすく解説しています。



出所：著者が作成



出所：著者が作成

※「未来年表」は、2045年までに何が起きるかを、「テクノロジーの変化」「資源や環境問題の変化」「マクロ的な動態・政治・経済の変化」の三分類で年表化しています。

無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



メガトレンド2019-2028 全産業編 [目次]

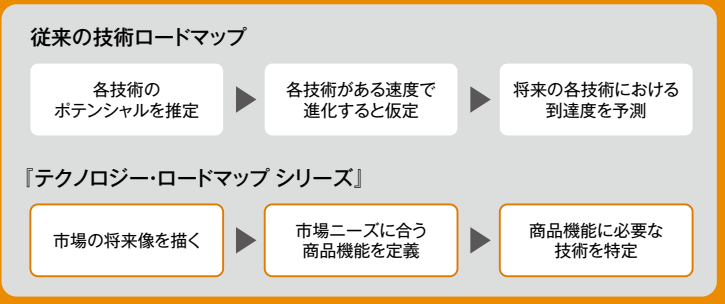
<p>序章 メガトレンドの読み方：本文構成について 人口予測と経済予測 2019～2045年の「未来年表」 (1)テクノロジーの変化①：移動体系技術 (2)テクノロジーの変化②：電子・情報系技術 (3)テクノロジーの変化③：医療・バイオ系技術 (4)資源や環境問題の変化 (5)マクロな政治～経済課題の変化 (6)未来年表まとめ：10年ごとの変化概観 (7)二つの矛盾とシナリオ・オプション 全体の思想について (1)課題から落とす (2)三つの科学で考える (3)ライフサイクル(主役交代と成熟の視点)で考える</p> <p>第1章 先進国の本格的な老衰：成熟がもたらす新市場 総論 ベビーブーマーの老衰 埋蔵金1800兆円の使い方 宿命の少子化とシンプルなその対策 遠因はメカトロニクスの成熟化 自治体やインフラも老朽化 個人から大企業まで含めた対応の方向性 1. シニア労働力活用 2. シニア支援 3. 女性の社会進出 4. 家族の希薄化 5. 高齢者の消費 6. 幼児教育市場の変化 7. ペット関連市場の拡大 8. 老朽インフラ対策 9. 世代間格差対策 10. 移住ビジネス 11. 観光ビジネス 12. 教育ビジネス</p>	<p>13. オランダ型農業立国 14. 衛星・宇宙ビジネス 15. 軍事技術の強化と輸出解禁 16. アナログ技術への回帰 17. 癒やし機能への欲求 18. 女性化とユニセックス化 19. 「ジモティー」「ヤンキー」化する若者</p> <p>第2章 新興国の成長ラッシュ：日本企業躍進の起爆剤 総論 新興国デビューの歴史 重大要因がメカトロニクス技術の成熟化 成長サイクルの圧縮化 インフラ輸出の全体像 国のライフサイクルと外貨を稼ぐ産業 インフラのゴールとは サービス収支 旅行収支 所得収支 リバースイノベーション化 20. 都市インフラ輸出の拡大 21.1. 昭和日本商材の再活用 21.2. リバースイノベーション</p> <p>第3章 成長ラッシュの弊：速すぎる変化がもたらす負の現象 総論 後発ほど加速する成長速度 高速成長で生じるゆがみ 成長優先で後回しになる課題とは 22. 空気や水の汚染防止・浄化技術 23. 「食の安全」問題 24. 多剤耐性菌対策 25. ユースバルジとBOPビジネス</p>	<p>第4章 市場の強大化：国家機能にも及ぶその影響 総論 すべてがオフショア化 国家を超えるグローバル市場の影響 都市が特区の単位で戦う時代へ 通貨安競争や税制優遇競争 財政負担に苦しむ成熟国家の地方自治体 官民公の境界が融合 行き過ぎた市場原理への抵抗 26. 世界的な特区競争 27. 開発～製造～消費のグローバル化 28. 官民の境界希薄化、民間委託</p> <p>第5章 「消費が美德」だった時代の終焉：サステナブルな価値観の台頭 総論 力学の錯綜する環境問題 サステナブルな時代に至った4つの背景 富裕化とエネルギー消費 地球温暖化問題の全体構造 29. エネルギー効率向上 30. 天災対策 31. シェールガスによる揺り戻し 32. 食料不足対策 33. 資源枯渇対策</p> <p>第6章 ポスト工業化社会の実像：「人の心を算出する」機能の商用化 総論 サービス化は長い近代化プロセスの終着駅 製造業からサービス産業化するときの8つのパターン 目的の手段化 脳科学との連携 34. 脱売り切り消耗品化</p>	<p>35. 保守運用ビジネス～BPO 36. 保険・金融業化 37. ファブライト開発へのシフト 38. マーケティング手法の劇的進化</p> <p>第7章 リアルとバーチャルの相互運動：脳から都市までスマート化が加速 総論 ヒト・モノ・空間の電装化とスマート化 リアル世界にタグを貼るという大脳の長年の夢 スマートコミュニティも拡張現実 脳直結コミュニケーション ニアフィールドビジネス デジタルマニュファクチャリングは仮想現実ものづくり端末 39. AR(拡張現実) 40. 自動運転車 41. おもてなしサービス 42. 「脳直」コミュニケーション 43. デジタルマニュファクチャリング</p> <p>第8章 会社も働き方も変わる：一所一生態命からオンデマンド機能提供型へ 総論 閉鎖系・秩序系に好適だった日本式経営 ノマドワーカー 社会貢献というモチベーション NPOがイノベーション創出起点になる オープン&シェア：所有より利用、競争より共創 デジタルハイテク分野のオープン化 生産財インフラは仮想化とシェアリング いじりやすい構造 多様なキュレーターとプロシューマーが出会う場所 パトロンのお金の余りから民の知の余剰へ 44.1. 企業と従業員・労働者のモジュール化 44.2. 企業と従業員・組織のモジュール化</p>	<p>45. ビジネスプラットフォーム設計 46. シェア&フラット化する価値観</p> <p>第9章 超人化する人類：生態と進化の人工操作への挑戦 総論 生命体の夢は永遠の命 人間の心身に肉薄する3系統の技術群 筋肉機能の補完と拡張 脳インタフェース バイオテクノロジーの別用途：動植物の品種改良 ロボティクスの発達 ライフサイエンス発達の影響 47.1. 生物機能利用 47.2. 遺伝子組換え生物利用 48. 人体強化(生物系技術) 49. 人体強化(非生物系技術) 50. 脳力開発</p> <p>第10章 人間らしさと幸福：変わる労働と休息の関係 総論 国の成熟と国民の幸せ 幸せな状態とは何か 幸せになるための条件をライフハックする 幸せになるための必要十分条件 人間らしさと幸せとビジネスチャンスの関係 51. 幸福とお金の関係(依存症ビジネス) 52. 幸福度の計測 53. 人間開発としてのスポーツ活動 54. 人間らしさとイベント活動</p> <p>第11章 メガトレンドがもたらす各産業分野の変化 1. 自動車・輸送機器 2. 電子・電気・機械 3. IT・メディア・コンテンツ</p>	<p>4. 医療・美容・健康 5. 素材・化学 6. 衣料・インテリア・雑貨 7. 農業・食品 8. インフラ・建築・エネルギー 9. 流通・サービス 10. 金融・保険・不動産 11. NPO・NGO</p> <p>終章 メガトレンドからメタトレンドへの翻訳 ソーシャルグラフ ソーシャルグラフ(知平面)から見たメタトレンド (1)敵は分散内在する癌細胞型になる (2)既存技術ハイブリッド型からバイオ系技術群へと進む技術開発のアプローチ (3)ヒーローは育てるアイドル化、社会的な権威はアンクル化 (4)幼児や妊婦に近づく人々の生活習慣 (5)オープン成熟社会は驚沢な多様なマイノリティ目線のバリアフリーに (6)非言語と言語の中間的なサービスのマニュアル化 (7)仮想化してオンデマンドに調達できる蛇口になる系が勝つ (8)オープンソースではリアルもリソースを開放して楽天的な市場運営になる (9)システムを構成する部品の価値と再編集の価値 (10)ポスト工業社会とは顧客行動ログの争奪戦 (11)オープン社会を支える基盤は信任貨幣と評価経済社会 (12)魅力の再発見 (13)二極化時代にはイミテーション技術が重要に (14)人の知恵の中心に座する好奇心という資本財 (15)人間中心で歩む技術と幸せの追求の関係 まとめ：今起きている新産業革命</p>
--	--	--	--	---	---

「テクノロジー・ロードマップ」シリーズ

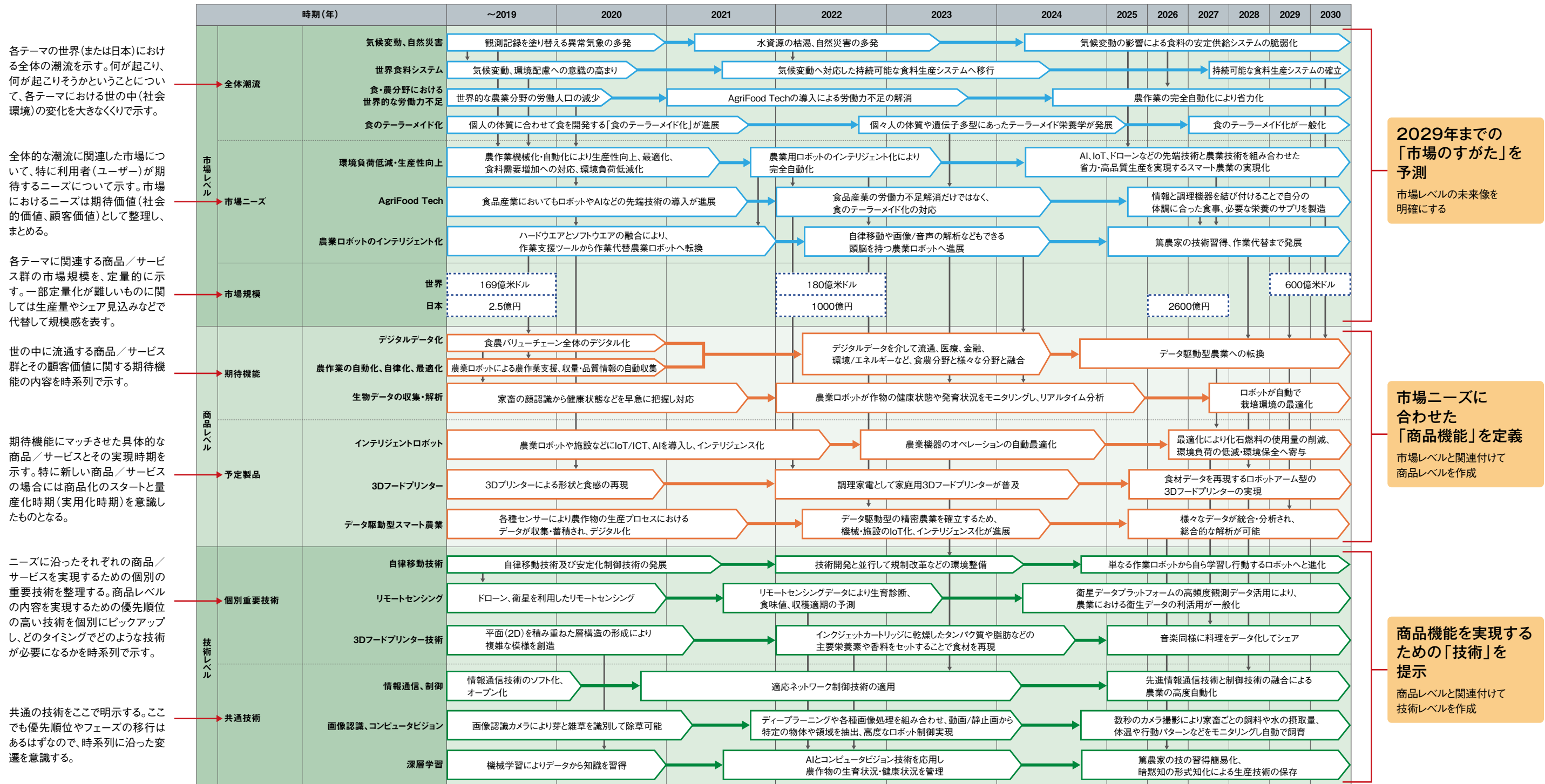
1300を超える企業や大学・研究機関が導入

これから10年間の市場と技術の変化を見通す

まず「市場ニーズ」を予測し、それを満たす「商品機能」を定義し、その機能を実現するための「技術」を提示するという、従来とは全く違うアプローチ方法で、イノベーションを起こす技術の今後10年の流れを予測します。



テクノロジー・ロードマップ2020-2029 全産業編 第6章 ロボット 7.農業ロボット



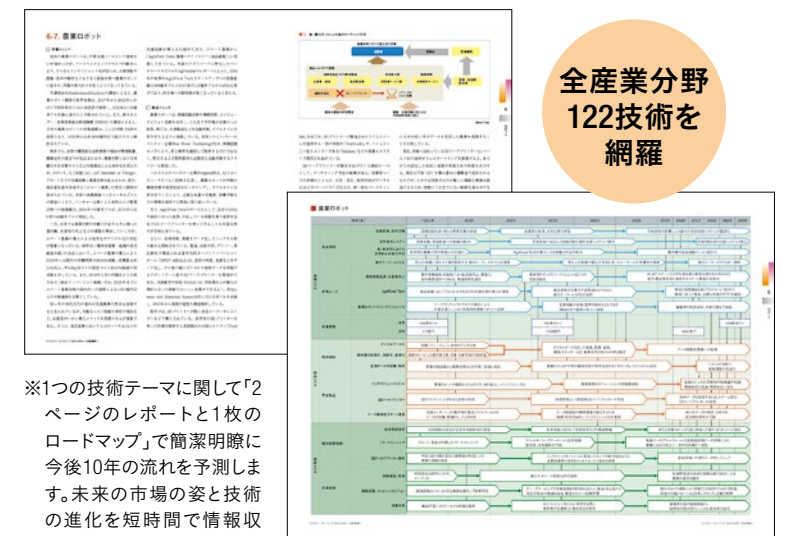
テクノロジー・ロードマップ 2020-2029 全産業編

市場ニーズを生む122技術の進化を予測 R&D戦略立案に「使える」 技術予測の決定版レポート

- 著者：出川 通、他88名
- 2019年11月29日発行
- レポート：A4判、約600ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載されたロードマップを収録
- 価格 ○書籍：600,000円+税 ○書籍とオンラインサービスのセット：900,000円+税
- 発行：日経BP



従来からある多くの技術ロードマップは、「この技術はこれだけ伸びる」ということを示したもので、「将来どのような製品やサービスが市場に受け入れられるか」の視点が抜けています。本レポートは、まず「市場ニーズ」を予測し、それを満たす「商品機能」を定義し、さらにその機能を実現するための「技術」を提示するという、従来とは全く違うアプローチ法によって作成されています。人工知能(AI)、モビリティ、エネルギー、医療、健康、ロボット、エレクトロニクス、情報通信、材料/製造、農業/食品工業など全産業分野を対象に、イノベーションを起こす122テーマを選定し、今後10年の流れを予測しました。本レポートは、すでに1300を超える企業や研究機関が、事業企画やR&D戦略立案のツールとして導入しています。全産業分野を網羅し、技術の未来を分かりやすく見える化した「技術予測」の決定版レポートです。



※1つの技術テーマに関して「2ページのレポートと1枚のロードマップ」で簡潔明瞭に今後10年の流れを予測します。未来の市場の姿と技術の進化を短時間で情報収集できます。

無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



テクノロジー・ロードマップ2020-2029 全産業編 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

序章
「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法
サマリー

第1章：人工知能(AI)

様々な産業分野で人工知能(AI)の利活用が見られるようになってきた。AI技術が人の活動を支援し、一部を置き換えることでどのような価値を生むか、それを先取りすることが競争力の源泉になりつつある。AIの利活用で今後、大きな影響力が期待されるモビリティ、医療、製造、農業、金融、住宅について取り上げ、今後10年の将来像を描いた。

- AIとモビリティ
- AIと医療
- AIと製造
- AIと農業
- AIと金融
- AIと住宅

第2章：モビリティ

「高齢化」「都市化」による課題の解決に向けて、相乗り型交通や自動運転を活用した地域社会の再構築が進む。超小型モビリティは、人々の生活に密着する交通手段となる。大容量データに基づくコネクテッドドライブを実現する共通基盤技術の構築が進む。IoT化により、車両が収集したデータの市場価値が生じ、インフラ整備や市場分析への活用が始まる。

- 高度運転支援/自動運転
- ラストマイル車(超小型モビリティ等)
- 空飛ぶ車
- MaaS(Mobility as a Service)
- HEV/PHEV/EV

- コネクテッドカー
- 未来車の社会受容性
- カーIoT
- V2X
- ワイヤレス給電(EV/PHEV)

第3章：エネルギー

ブロックチェーン技術と先進的電力変換技術による電力、IT、金融を統合した電力インターネットが普及し始める。健康バイタルサイン、消費カロリーを常時モニタリングする人体通信型センサーの需要が高まり、超小型自立電源が求められる。環境適合性、経済性、安定供給、安全性の原則の下、核融合エネルギーは21世紀半ばの発電実証を目指す開発が進む。

- デジタルグリッド
- 太陽光発電
- バイオマスエネルギー
- 微生物発電
- エナジーハーベスター
- Liイオン電池
- 全固体電池
- 核融合エネルギー

第4章：医療

医療従事者は人工知能(AI)の活用で生産性向上と医療の質向上を実現し、患者は医療情報を活用した個別化医療を受けられる時代が到来する。最先端の遺伝情報などを応用し、発症自体を予防する先制医療という考え方が必要不可欠になる。ゲノム医療が開始され、さらに新しい治療法の開発が急速に進められ、将来的に患者にとっては有効な選択肢が増える。

- 先制医療

- 再生医療
- ゲノム編集
- がん医療
- 在宅医療
- 遠隔医療/オンライン診療
- 医療情報アプリ
- 介護IoT
- スマート治療室
- 先進医療機器

第5章：健康

生体情報、環境情報、行動情報による総合/客観的評価による個別/地域適合が起こる。24時間社会、介護、引きこもりなどがもたらす社会負担の増大をサーカディアンリズムの適正化が軽減する。ウェアラブルな非侵襲型生体センサーの市場成長が見込まれ、医療ヘルスケア機器/活動支援システムへと発展する。スポーツからヘルスケアへの技術転用・拡散が進む。

- 予防医療
- 見守り
- EBH(Evidence Based Health)
- サーカディアンリズム
- 認知症対策
- ITスポーツ
- インシュアテック
- POCT(Point Of Care Testing)
- 非侵襲型生体センサー

第6章：ロボット

団塊の世代が後期高齢者になる2022年から生産年齢人口が急減する2025年以降、介護ロボットのニーズは増大し続ける。建設施工分野ではICTや制御、センサー、測量などの進歩を背景に建設機械がより高度なロボットへと

進化する。従来の農業ロボットは作業支援ツールという意味合いが強かったが、頭脳を持つ農業ロボットとして作業の肩代わりを担うようになる。

- コミュニケーションロボット
- RPA(Robotic Process Automation)
- 介護ロボット
- ロボットスーツ
- 手術支援ロボット
- 建設ロボット
- 農業ロボット
- 自動宅配ロボット
- ソフトロボティクス
- BCI(Brain Computer Interface)

第7章：エレクトロニクス

24時間の健康関連データの価値が認められ、装着性に優れた貼付型センサーが一般化、データ分析・診断サービスに発展する。単機能の眼鏡型デバイスは淘汰され、複数の機能をモジュールとして組み合わせたパーソナルデバイスが出現する。撮像装置は、自動車が牽引役となり多機能化し、距離や温度のほか、大きさ、体積などを測定する装置となる。

- ウェアラブル/インプラント
- スマートアイウェア
- インジリアルディスプレイ
- ニアフィールドセンシング
- HMD(Head Mounted Display)
- AI半導体

第8章：情報通信

5Gネットワークの運用がエッジコンピューティングを活用して行われる。セキュリティ分野で使われてきた異常発見技術が他の用途に広がり、個人向けサービスの形で開始される。モノの

通信は2022年以降、5G化が進む。スライシングの実現でネットワーク設計や仲介を行うビジネスが登場する。産業利用は拡張現実(AR)が先行し、複合現実(MR)が後を追う。

- エッジコンピューティング
- スマートエージェント
- 状況判断ツール
- 第5世代移動通信システム(5G)
- IoT無線
- VNF(Virtual Network Function)
- 複合現実(MR)/拡張現実(AR)

第9章：材料/製造

カーボンニュートラルで、環境中での生分解性制御が可能な植物バイオマスのマテリアル利用への取り組みが活発化する。世界や日本において、IoT/AIの技術を用いてもづくりにおける効率化や新たな顧客価値を創造を目指す動きが広がる。ユーザーの価値観の多様性やQOL向上への欲求により、既製品からカスタム製品へのニーズが高まる。

- 自動車用材料
- 宇宙用材料
- 生体適合性材料
- セルロースナノファイバー
- スマートものづくり
- マイクロ波化学プロセス
- 3Dアディティブ・マニュファクチャリング(3D-AM)

第10章：ネットサービス

生活の場全体でのデータを統合、活用し、新たな体験を提供することが競争力につながる。チャンネルの多角化、体験型サービスへの移行、パーソナライゼーションを要因に消費者の購買体験が

変化する。都市全体をデジタルデータ上で統合し、課題を全体最適で解決し、マネジメントする手法が普及する。動画共有型SNS、マーケティングオートメーション、DMPの普及が加速する。

- シニアマーケット
- シェアリングエコノミー
- オムニチャネルマーケティング
- 電子商取引(EC)
- スマートシティ
- デジタルマーケティング
- ゲームフィケーション

第11章：金融

キャッシュレス化の潮流は、消費者と金融機関の付き合い方を大きく変える。金融のグローバル化や投資対象と投資関連情報の増加、AIの進化に伴い、株価予測へのニーズが高まる。シェアリングエコノミーの台頭に伴い、「問題なく」取引できる意味での信用度の評価ニーズが高まる。人生100年時代を見据え、グローバルなリスク資産による長期投資に移行する。

- フィンテック
- 仮想通貨(ブロックチェーン)
- 株価予測
- クレジットスコアリング
- 格付け/リスク管理
- 決済サービス
- 個人資産運用

第12章：農業/食品工業

生活習慣病予防/改善商品、ロコモティブシンドローム対策商品が治未病食品として拡大する。健康機能価値を反映した個別オーダー型の加工食品市場が形成される。ICTを用いることで、料理

をエンターテインメントとして捉える市場が新たに創出される。食料問題の解決、気候変動対策として、垂直農業やフェイクフード、細胞農業などの取り組みが重要となる。

- 高齢化と食
- 健康/運動と食
- 食品トレーサビリティ
- フードテック
- 加工食品
- 機能性食品
- 環境農業
- 細胞農業
- バイオエコノミー
- 食農ICT
- 食ロ
- アグロメディカルフーズ
- 農業経営

第13章：建築/土木

インフラの設計・施工から老朽化対策を含む維持管理まで、生産性の向上を目指すi-Constructionとライフサイクルコスト低減のための自己治癒コンクリート、各種デバイスを利用した点検・監視システム、エネルギー管理・機器制御やヘルスケア、セキュリティの確保など、交通分野を含めて都市全体で経済社会構造の変革を目指すスーパーシティの将来像を俯瞰する。

- スーパーシティ
- インフラ監視システム
- 中・大規模木造建築
- i-Construction(BIM & CIM)
- 自己治癒コンクリート

第14章：社会インフラ

廃棄物の輸出規制、海洋汚染などに

り、プラスチックごみの適正処理、リサイクルへの関心が急速に高まっている。2030年時点での廃棄物の大幅削減を目標とする「サーキュラーエコノミー」を取り上げるとともに、インフラ形成において重要である「電力」「ガス」「水」「運輸・交通」「情報通信」の各産業分野について、今後10年の将来像を示す。

- サーキュラーエコノミー
- 電力産業
- ガス産業
- 水産業
- 運輸・交通産業
- 情報通信産業

第15章：航空宇宙/海洋開発

宇宙の居住空間や環境維持、エネルギー生成を中心に多様な宇宙居住インフラ装置が発展する。リモートセンシング会社が自らネットを通じてデータを販売する動きが活発化、抽出したデータをカスタマーに提供する。旅客機は、「時間を買う」ためのビジネス機に超音速機が登場、リージョナル機の環境対応が強く求められ、ハイブリッド機への転換がなされる。

- 宇宙居住技術
- 小型衛星
- リモートセンシング
- 測位衛星システム
- ロケット
- 有人探査/宇宙科学
- スペースコマース
- 新世代ドローン(無人機)
- 超音速旅客機
- 電動旅客機
- 海洋資源開発

テクノロジー・ロードマップ 2019-2028 医療・健康・食農編

「生活の質の向上」「社会的課題の解決」
「ビジネスチャンス」の三つの視点で
今後10年の技術進化を予測する

「医療・健康・食農」は、AI、IoTなど先端ICTで大きく変化し、成長しています。本レポートは「生活の質の向上」「社会的課題の解決」「ビジネス機会の拡大」という三つの視点を設定し、AIと医療、AI創薬、医療ビッグデータ、スマートウエア、健康長寿、毛髪診断、口腔ケア、腸内デザイン、精密医療、疲労科学、個別化食、フェイクフード、バイオエコノミーなど、市場価値と時流の変化に合わせて進化する「医療・健康・食農」80テーマの今後10年の技術の変遷を予測しています。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 著者：出川 通、他77名
- 2019年3月13日発行
- レポート：A4判、386ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載されたロードマップを収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

テクノロジー・ロードマップ 2018-2027 自動車・エネルギー編

モビリティ関連技術の進化を予測
知能化・ネットワーク化で
自動車・エネルギー産業はどう変わる

クルマの知能化・ネットワーク化、環境・安全規制の強化などで、自動車産業はこれから大きく変貌します。クルマと関連の深いエネルギー分野でも、激しい変化が起きそうです。本レポートは、エンジン、EV、リチウムイオン電池、自動運転、HMI、太陽光発電、高温ガス炉など、自動車・エネルギー分野における61の重要テーマについて、これから10年の技術の変遷を予測します。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 著者：出川 通、他53名
- 2017年10月25日発行
- レポート：A4判、304ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載されたロードマップを収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

テクノロジー・ロードマップ 2018-2027 ICT融合新産業編

ICTを活用し融合することで
新たな価値を生む産業
その未来像と技術進化を予測する

ICTを活用し融合することで新たな価値を生む、農業、自動車、製造、医療・介護、小売・マーケティング、金融、社会インフラ、教育、メディア、企業経営、生活など、各分野における技術進化を予測しました。予測に際しては「テクノロジー・ロードマップ」のコンセプトである「まず未来の市場ニーズを予測し、それを満たす機能や商品を推定、それを実現する手段＝技術に落とし込む」手法を駆使しています。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 著者：緒方 真一、他68名
- 2018年3月16日発行
- レポート：A4判、408ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載されたロードマップを収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

テクノロジー・ロードマップ 2017-2026 金融・マーケティング流通編

フィンテック、マーケティング新潮流、流通革新
ICT×AIがもたらす産業の変革と
技術進化を予測する

既存産業とICT(情報通信技術)×AI(人工知能)の融合によって、金融分野、マーケティング流通分野での競争環境が大きく変わり、他分野を巻き込んだ大変化が起きようとしています。ICTと金融が融合したフィンテック、IoTやビッグデータを駆使した新たなマーケティング手法など、74テーマを取り上げ、市場の将来像とそれに適合する商品/サービス、技術を関連付けて今後の10年を見通します。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



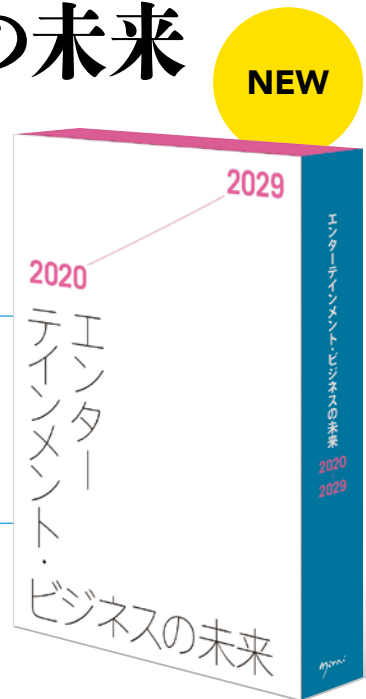
- 著者：大津山 秀樹、伊藤 由紀美、他68名
- 2016年12月26日発行
- レポート：A4判、408ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載されたロードマップを収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

エンターテインメント・ビジネスの未来 2020-2029

NEW

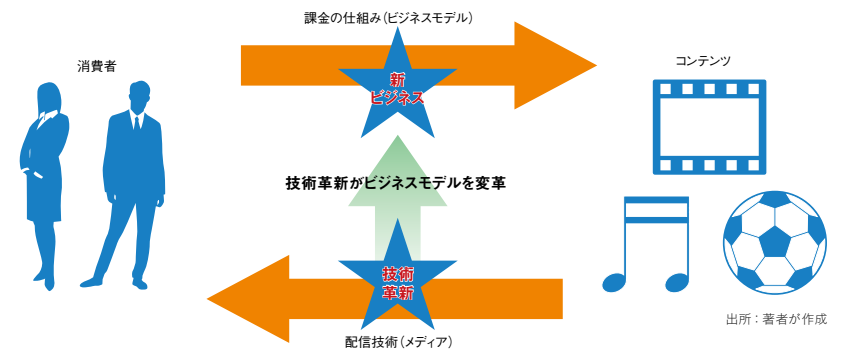
先端技術とエンターテインメントの融合 巨大IT企業が塗り替える未来像と 新たなビジネスチャンスを読み解く

- 著者：北谷 賢司
- 2019年12月13日発行予定
- レポート：A4判、約300ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格 ○書籍：300,000円+税 ○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP



エンターテインメント産業は、過去最大の転機を迎えています。「FAANG」と呼ばれる巨大IT企業が新サービスのサービスを次々に繰り出し、映画スタジオ、テレビ局、レコード会社など既存業界のビジネスモデルが崩壊しつつあります。一方で、音楽ライブやプロスポーツなどのライブ・エンターテインメントは、かつてない活況を呈しています。そして、消費者が受け取る感動は、SNSによってさらに増幅・拡散されていきます。こうした技術革新による業界構造の変化は、様々な産業にビジネスチャンスをもたらします。本レポートは、先端技術の力で激変・進化するエンターテインメントの未来を予測し、多様な産業・業界で立ち上がる新たなビジネスを読み解きます。

■ エンターテインメント産業があらゆる業界に影響を及ぼす



※今後コンテンツの消費の場は、スマートフォンなどの電子機器から自動運転車などの新ジャンルの製品、統合リゾート(IR: Integrated Resort)施設やスタジアムといったリアルな場所にも広がる。電子商取引や広告との連動を通じて、メディア・エンターテインメント産業はあらゆる業界に影響を及ぼす。

無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



エンターテインメント・ビジネスの未来2020-2029 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

第1章 メディア・エンターテインメントの未来

1-1 総論

- 1-1-1 未来の方向性と他産業への影響
- 1-1-2 転換点の2020年①:5Gとビデオ
- 1-1-3 転換点の2020年②:リアル施設も転機に
- 1-1-4 日本の未来としての米国
- 1-2 映画と放送を襲う危機
- 1-2-1 新旧勢力のつばぜり合い
- 1-2-2 王者ハリウッドに存亡の危機
- 1-2-3 新興IT企業群が主役に
- 1-3 ネットがもたらす新しい現実
- 1-3-1 動画視聴の主役はSVOD
- 1-3-2 動画配信基盤になるSNS
- 1-3-3 モバイル端末が牽引役
- 1-4 コンテンツの支配者が変わる
- 1-4-1 SVODとSNS:コンテンツの量や質で圧倒
- 1-4-2 スポーツのライブ中継もSNSに
- 1-4-3 ハリウッドから主導権を奪取へ
- 1-4-4 新興勢力が圧倒的な影響力
- 1-5 ビジネスモデルの刷新
- 1-5-1 広告ターゲットの流出
- 1-5-2 レコメンドから実際の購入まで
- 1-6 スーパープラットフォームの誕生
- 1-6-1 すべてを取り込むプラットフォームへ
- 1-6-2 エンタメ産業の勢力争いは当面続く
- 1-6-3 ストリーミング戦国時代へ突入
- 1-6-4 サービスの盛衰と鍵を握る技術

第2章 ライブ・エンターテインメントの未来

2-1 総論

- 2-1-1 ライブ・コンテンツの台頭
- 2-1-2 音楽はレコードよりもライブ
- 2-1-3 映画スタジオはブロードウェイへ
- 2-1-4 ビデオゲームがリアルと融合
- 2-2 リアルならではのビジネス
- 2-2-1 ライブ・エンタメの最大の価値
- 2-2-2 人気の高さが金額に反映
- 2-2-3 スポンサー収入や商品販売も好調
- 2-2-4 ベットティング解禁でさらに成長
- 2-3 デジタル技術でファンを育成
- 2-3-1 ファン層のロイヤリティを高める
- 2-3-2 多彩なチャンネルで情報発信
- 2-3-3 SNSでファンを盛り上げる
- 2-3-4 顧客データをいち早く入手
- 2-4 エンターテインメント・シティ
- 2-4-1 スマートスタジアムが標準に
- 2-4-2 エンタメを中心とした都市づくり
- 2-4-3 エンタメの拠点としてのIR
- 2-4-4 エンタメを軸にMICEを誘致
- 2-4-5 依存症が減少する可能性
- 2-5 日本のエンターテインメントの未来
- 2-5-1 成長産業へのチャンス
- 2-5-2 日本の活路は世界に

第3章 未来を創るキーワード

3-1 総論

- 3-1-1 先端技術とエンターテインメント
- 3-2 5G
- 3-2-1 未来のシナリオ
- 3-2-2 速度100倍が実現する世界
- 3-3 IoTとスマートデバイス
- 3-3-1 未来のシナリオ
- 3-3-2 スマートスピーカーの先へ

3-4 AR/VR

- 3-4-1 未来のシナリオ
- 3-4-2 リアルとバーチャルの融合
- 3-5 人工知能(AI)
- 3-5-1 未来のシナリオ
- 3-5-2 レコメンドから番組制作まで
- 3-6 ブロックチェーン
- 3-6-1 未来のシナリオ
- 3-6-2 権利の管理と仮想通貨の可能性

第4章 映画の未来

- 4-1 10年後の産業像
- 4-1-1 全体像
- 4-1-2 SVODが業界を刷新
- 4-1-3 ネットフリックス対アマゾン
- 4-1-4 日本の業界の行方
- 4-2 転換期の映画産業
- 4-2-1 ネットフリックスとSVOD
- 4-2-2 SVODが取り戻す多様性
- 4-2-3 山積する課題の突破口
- 4-3 ハリウッドの強みと限界
- 4-3-1 映画産業の構造
- 4-3-2 制作から配給経路まで握る
- 4-4 製作体制の現状と限界
- 4-4-1 不動産と金融機能を提供
- 4-4-2 定評ある人物の企画のみ検討
- 4-4-3 企画開発費に50万~200万ドル
- 4-4-4 製作決定に配給部門の意向
- 4-4-5 若者がメインターゲット
- 4-4-6 フランチャイズフィルムで勝負
- 4-5 配給体制の現状と課題
- 4-5-1 配給経費と配給手数料
- 4-5-2 ウインドウマネジメントで収益を

最大に

- 4-5-3 ネット配信では後追い
- 4-6 デジタルシネマの進化
- 4-6-1 新興勢力への対抗策
- 4-6-2 撮影、配給、興行を効率化
- 4-6-3 スタジオが協力して環境を整備
- 4-6-4 映画製作の裾野を広げる
- 4-6-5 8K映像を生かせるか
- 4-6-6 スクリーンの「テレビ化」も
- 4-7 3D映画の可能性
- 4-7-1 3D映画と映画以外のコンテンツ
- 4-7-2 3Dに復活の芽も
- 4-7-3 映画以外の3D化も今ひとつ
- 4-8 産業再興への道筋
- 4-8-1 成長に向けた選択肢
- 4-8-2 劇場に人を集める策を競う
- 4-8-3 プロスポーツに学ぶ
- 4-8-4 頭にかぶる劇場
- 4-8-5 ビッグデータやAIをどう使うか

第5章 放送の未来

- 5-1 10年後の産業像
- 5-1-1 全体像
- 5-1-2 テレビ地方局から苦境に
- 5-1-3 台頭するメガメディア
- 5-2 放送産業の破壊的变化
- 5-2-1 米国で相次ぐ大型M&A
- 5-2-2 テレビの凋落とデジタルの台頭
- 5-2-3 巨大IT企業が支配する将来
- 5-2-4 日本の備えは十分か
- 5-3 国内放送産業の現状と課題
- 5-3-1 日本ならではの業界構造
- 5-3-2 変化から速い業界

5-3-3 制作体制の抜本的な見直しも

- 5-3-4 制作会社との関係が変わる
- 5-3-5 二次利用前提の体制に
- 5-4 地方局から始まる再編
- 5-4-1 高まりつつある統合の機運
- 5-4-2 収益とコンテンツの両面で苦境に
- 5-4-3 地域密着コンテンツのハブに
- 5-4-4 世界に向けた番組配信も
- 5-4-5 衛星放送やケーブルも厳しく
- 5-5 ネット時代の放送のあり方
- 5-5-1 放送局の将来像
- 5-5-2 高視聴率からファンの育成へ
- 5-5-3 プラットフォームを握れるか
- 5-5-4 映像コンテンツの将来像

第6章 音楽の未来

- 6-1 10年後の産業像
- 6-1-1 ライブをネットで盛り上げる
- 6-1-2 主役は現場ならではの感動
- 6-2 ライブとサブスクで成長
- 6-2-1 レコード会社の没落
- 6-2-2 ライブ興行会社の興隆
- 6-2-3 サブスクでレコード会社復活
- 6-2-4 ストリーミングは超薄利多売
- 6-2-5 格差の拡大を止められるか
- 6-2-6 ストリーミングの難点を解消
- 6-2-7 ストリーミングに挑むラジオ局
- 6-2-8 ポッドキャスト人気に乗れるか
- 6-2-9 激化する主導権争い
- 6-2-10 スポティファイが目指す方向
- 6-2-11 地歩を固めるライブ業界2強
- 6-3 国内興行ビジネスの構造改革
- 6-3-1 利便性で海外に及ばず

6-3-2 分断されて非効率な業界

- 6-3-3 個人のビジョンが業界を変えた
- 6-3-4 興行会社の統合へ
- 6-3-5 2大企業の誕生
- 6-3-6 会場不足は解消へ
- 6-3-7 世界市場への進出を

第7章 演劇の未来

- 7-1 10年後の産業像
- 7-1-1 ダイナミックプライシングが標準に
- 7-1-2 ファンクラブとシーズンチケットで安定化
- 7-2 目標としてのブロードウェイ
- 7-2-1 人気のショーが成長を牽引
- 7-2-2 顧客層の育成から
- 7-2-3 ファンは高学歴で高収入
- 7-2-4 シーズンチケットやネット販売へ
- 7-2-5 ストリーミングは演劇を救うか
- 7-3 ヒットを生む制作手法
- 7-3-1 多岐にわたる収益源
- 7-3-2 出資の主体は個人から企業へ
- 7-3-3 ヒットの方方程式を探る
- 7-3-4 段階を踏んで品質を向上
- 7-3-5 2.5次元コンテンツへの期待
- 7-3-6 海外で勝負できる作品作り

第8章 スポーツの未来

- 8-1 10年後の産業像
- 8-1-1 全体像
- 8-1-2 ライブ観戦とネットが融合
- 8-2 米国の活況と日本の停滞
- 8-2-1 高騰する放映権料

8-2-2 国内視聴者の特性

- 8-3 国内スポーツビジネスの成長
- 8-3-1 地元密着で巻き返し
- 8-3-2 日本スポーツの海外展開

第9章 IR・カジノの未来

- 9-1 10年後の産業像
- 9-1-1 全体像
- 9-1-2 エンタメの統合拠点に
- 9-2 カジノ産業の発展
- 9-2-1 ラスベガスの事業構造
- 9-2-2 最大市場はアジアへ
- 9-3 日本のIR、成功への鍵
- 9-3-1 IRと都市のエンタメ化
- 9-3-2 失敗を招く要因

第10章 エンターテインメントと各種産業

- 10-1 移動xエンターテインメント
- 10-2 都市計画xエンターテインメント
- 10-3 観光xエンターテインメント
- 10-4 商品販売xエンターテインメント
- 10-5 広告xエンターテインメント

図1-1-3 新興勢力が優勢に



図1-1-22 スーパープラットフォームの誕生

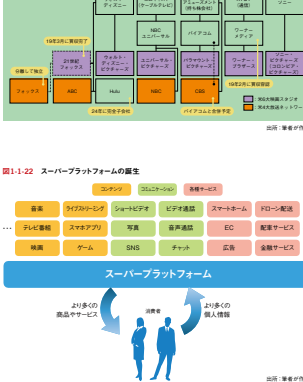


図2-2-2 ライブ・エンターテインメントとメディア・エンターテインメントの関係

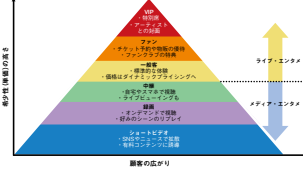
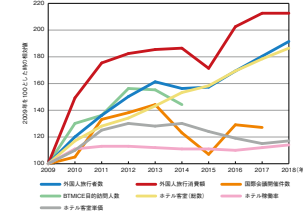


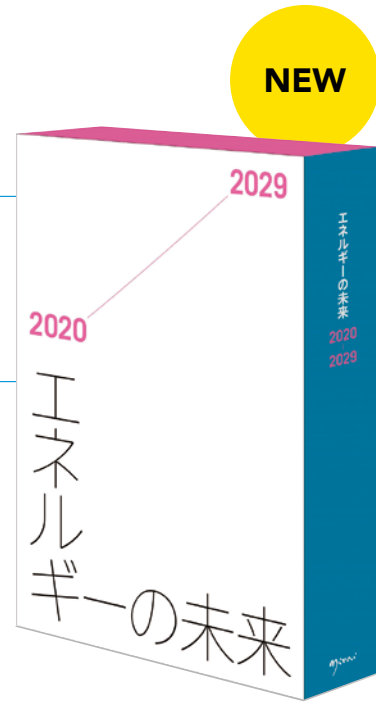
図2-4-3 シンガポールにおける映画産業の発展の各種指標の推移(2009~2018年)



エネルギーの未来 2020-2029

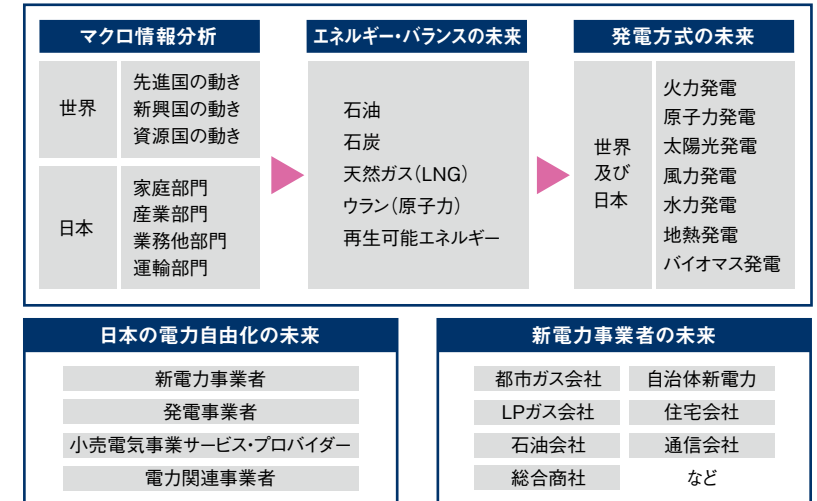
エネルギー市場の未来を描き出し 電力自由化の今後10年を展望 各プレイヤーの進むべき道を提示する

- 監修：村井 哲之（株式会社エネルギーマネジメント総合研究所 代表取締役）
- 著者：園田 展人（EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation Leader アソシエートパートナー、早稲田大学 客員教授）
目黒 文子（EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation マネージャー、早稲田大学 招聘研究員）
村谷 敬（株式会社AnPrenergy 代表取締役）
- 2019年12月19日発行予定
- レポート：A4判、約400ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍のみ：450,000円+税 ○書籍とオンラインサービスのセット：675,000円+税
- 発行：日経BP



世界のエネルギー消費量は今後も増加の一途をたどるでしょう。先進国では減少に向かうものの、中国やインドなどの新興国ではそれを上回るペースで増えるからです。それに伴い、世界のエネルギー市場は大きく変化します。今後、どう変わっていくかを把握するには、石油価格やCO₂削減、再生可能エネルギーの普及動向、蓄電池の技術進化などの情報入手し、分析・予測する必要があります。本レポートは、エネルギーを取り巻くマクロ情報を分析し、石油やLNGなどの1次エネルギーや、電気などの2次エネルギーの市場動向を予想するとともに、国内の電力自由化の将来を展望することで、世界や日本のエネルギー産業に携わる各プレイヤーに進むべき道を提示します。

■ 本レポートの主な構成



無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



エネルギーの未来2020-2029 [目次]

※目次は変更になる場合があります。

第1章 エネルギーを取り巻く世界のマクロ情報

- 1-1 総論
- 1-2 先進国の動き
- 1-3 新興国の動き
- 1-4 資源国の動き

第2章 エネルギーを取り巻く日本のマクロ情報

- 2-1 総論
- 2-2 家庭部門
- 2-3 産業部門
- 2-4 業務他部門
- 2-5 運輸部門

第3章 エネルギー・バランスの未来

- 3-1 総論
- 3-2 世界の1次エネルギー供給の未来予測
- 3-3 石油について
- 3-4 石炭について
- 3-5 天然ガス(LNG)について
- 3-6 ウラン(原子力)について
- 3-7 再生可能エネルギーについて

第4章 世界の発電方式の未来

- 4-1 世界のエネルギー・ミックスの予測
- 4-2 火力発電の未来
- 4-3 原子力発電の未来
- 4-4 太陽光発電の未来
- 4-5 風力発電の未来
- 4-6 水力発電の未来
- 4-7 地熱発電の未来
- 4-8 バイオマス発電の未来

第5章 日本の発電方式の未来

- 5-1 日本のエネルギー・ミックスの予測
- 5-2 火力発電の未来
- 5-3 原子力発電の未来
- 5-4 太陽光発電の未来
- 5-5 風力発電の未来
- 5-6 水力発電の未来
- 5-7 地熱発電の未来
- 5-8 バイオマス発電の未来

第6章 電力の自由化の未来予測

- 6-1 2020~2021年に起きること
 - 6-1-1 【新電力事業者】自治体電力の一部が破綻へ、「住民なきシュタットヘルケ」の大きな代償
 - 6-1-2 【新電力事業者】都市ガスの自由化を背景に、大手電力が都市ガス事業者を大きく圧迫
 - 6-1-3 【新電力事業者】新電力、続々と大手電力の傘下に、「LCC化」が進む
 - 6-1-4 【発電事業者】総崩れの太陽光発電事業者、アジア地域進出の転機に
 - 6-1-5 【発電事業者】小型化する再生可能エネルギー発電所、送配電網の電力容量などが理由
 - 6-1-6 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】EVの「走る蓄電池化」、需給調整として活躍
 - 6-1-7 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】新電力事業者の需給管理システム、人工知能による戦略策定機能を搭載へ
 - 6-1-8 【電力関連事業者】ネガワット・アグリゲーターが登場へ、節電分をお金に換える
- 6-2 2021~2022年に起きること
 - 6-2-1 【新電力事業者】バラシググループが破綻する、ラニーニャによる市場高騰がキッカケに
 - 6-2-2 【新電力事業者】産業用卒FITの価値が明確に、RE100が経済合理性を根拠に大いに進展

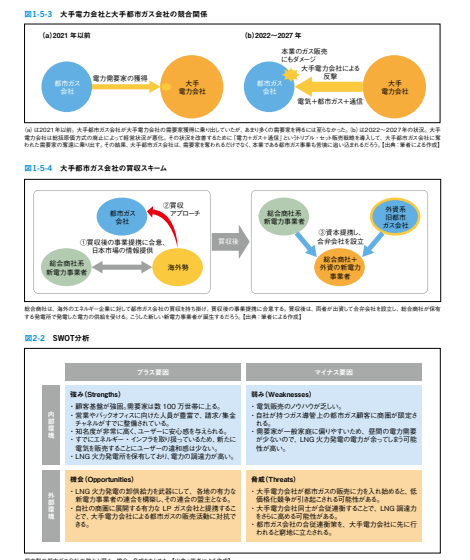
- 6-2-3 【新電力事業者】熱利用に明暗、大型バイオマス周辺で熱余剰問題発生
- 6-2-4 【発電事業者】PKSに課題が続出、バイオマス発電所の収支が急激悪化へ
- 6-2-5 【発電事業者】新電力連合が各地で結成、業界団体化
- 6-2-6 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】新電力事業者の競争激化、オーガナイザーが出口戦略立案へ
- 6-2-7 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】政府公認の「電気料金比較サイト」登場、電力会社の切り替えが活発に
- 6-2-8 【電力関連事業者】新型の「HEMS/BEMS」が登場、機能やインターフェースが大幅に進化
- 6-3 2022~2023年に起きること
 - 6-3-1 【新電力事業者】需要調整技術を備えた新電力が、BRPを結成し再反抗に備える
 - 6-3-2 【新電力事業者】苦戦する商社系新電力事業者、電力卸販売ビジネスに活路を求める
 - 6-3-3 【新電力事業者】新電力事業者、販売競争加熱で消費者トラブルが続出
 - 6-3-4 【発電事業者】海外のエネルギー会社、再生可能エネルギーアグリゲーターとして躍進
 - 6-3-5 【発電事業者】洋上風力発電が拡大へ、地元漁業関係者との交渉がカギに
 - 6-3-6 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】新電力事業者の成長サポートを目的に、信用格付け業者が登場する
 - 6-3-7 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】スマートメーターの設置が完了、ビッグデータの活用が勝敗を分ける
 - 6-3-8 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】ZEH/ZEBが増加へ、新電力事業者の経営環境に打撃
- 6-4 2023~2024年に起きること
 - 6-4-1 【新電力事業者】大手電力会社が都市部で大

- 反撃へ、都市ガス会社は窮地に追い込まれる
- 6-4-2 【新電力事業者】大手電力会社と都市ガス会社、地方部では連携へ
- 6-4-3 【新電力事業者】石油会社系の新電力事業者、自治体と連携しながら過疎地域に活路
- 6-4-4 【発電事業者】エネルギー基本計画に原子力発電が盛り込まれ、原発再稼働本格化
- 6-4-5 【発電事業者】中国企業、太陽光にとどまらず、風力やバイオマスにも進出へ
- 6-4-6 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】容量市場、高度化法の導入で、実力なき新電力事業者が淘汰
- 6-4-7 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】水素電池、離島における需要調整に活路
- 6-4-8 【電力関連事業者】JEPXでの電力取引の重要性高まる、電力需給管理や金融工学の専門家が花形に
- 6-5 2024~2029年に起きること
 - 6-5-1 【新電力事業者】大手電力の合従連衡が進む中、取り残された大手電力を外国企業が買収
 - 6-5-2 【新電力事業者】海外のエネルギー会社が日本進出、商社の仲介で都市ガス会社を買収へ
 - 6-5-3 【新電力事業者】小売電気事業の寡占化進む、新規参入者への優遇策を導入へ
 - 6-5-4 【新電力事業者】IoT、自動運転、AIを背景に電力需要が激増、第2のカリフォルニア危機へ
 - 6-5-5 【発電事業者】地熱発電が普及に向けて大きく前進、温泉旅館の世代交代などがキッカケに
 - 6-5-6 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】送配電網の維持がいよいよ困難に、発送電分離後初の送電事業者買収
 - 6-5-7 【小売電気事業者サービス・プロバイダー】再生可能エネルギー電力導入型マイクログリッド、大手電力を追い詰める切り札に
 - 6-5-8 【電力関連事業者】中国蓄電池の日本への大

- 量導入が、電力会社を守り続けた制度を徹底破壊
- 第7章 新電力事業者の未来
- 7-1 都市型の都市ガス会社：大手電力会社に敗れ、本業に危機迫る
- 7-2 地方型の都市ガス会社：地元大手電力会社と競合せず融和へ
- 7-3 大手LPガス会社：都市ガス自由化を追い風に躍進
- 7-4 地方LPガス会社：スマート・コミュニティを完成させて独立保つ
- 7-5 石油会社：電力自由化の主役は狙わない
- 7-6 総合商社：リスクはとらずに一発逆転を狙う
- 7-7 自治体新電力：再エネ×マイクログリッドで大逆転の機会
- 7-8 住宅会社：顧客との関係強化に小売電気事業を利用
- 7-9 独立系：「新電力連合」を組織、各地で抵抗活動を開始
- 7-10 通信会社：ポイント経済を最大限に活用し大手電力と一足先に講和を確立
- 7-11 太陽光発電系：多くは2020年までに淘汰される
- 7-12 ライフスタイル系：需要家ニーズに合わせた独自プランで差別化
- 7-13 電気設備/エンジニアリング会社：電力需給調整能力を武器にBRP化
- 7-14 大手電力会社の子会社：「矛」と「盾」として活用へ
- 7-15 通信代理店系：特定商取引法トラブルを続出させながらも大いに需要家を拡大
- 7-16 小売流通業：家庭との密な接点をフル活用し、英国セインズベリーモデルを実現
- 7-17 外国資本電力：外国資本の再エネ事業者と提携し、産業用卒FIT電源を活用し大攻勢

第8章 世界の電力自由化とエネルギー事情

- 8-1 英国：電力自由化後に再び寡占状態に、規制当局の施策でビッグ6+リトル6へ
- 8-2 ドイツ：自由競争よりも系統安定化を優先、大手電力会社を事実上優遇へ
- 8-3 北欧諸国：成功の理由は「ノルドプール」にあり、課題はエネルギー・ミックス
- 8-4 オーストラリア：価格高騰のリスクヘッジが課題に、ビッグ3の寡占化を許す
- 8-5 米国：カリフォルニア電力危機で得た教訓、長期の電力供給力を確保へ
- 8-6 中国：増加の一途をたどるエネルギー需要に対し、エネルギー調整技術が向上
- 8-7 東南アジア：欧州エネルギー企業が続々進出、日本企業とシェア争いへ

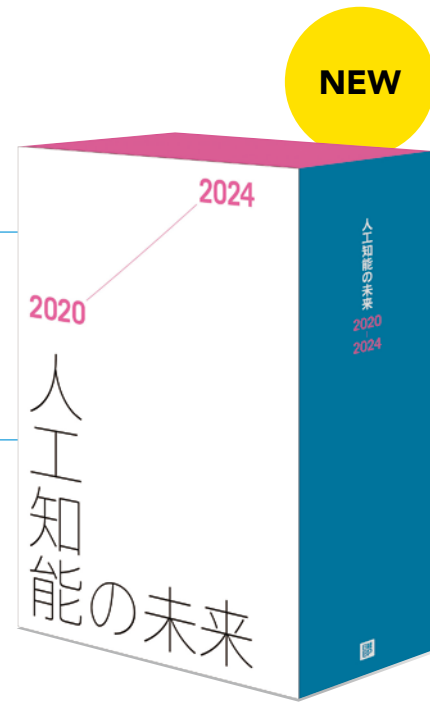


人工知能の未来 2020-2024

人工知能がもたらす市場やビジネスの 変化を予測。新たに5業種の 業務別AI導入ロードマップを提示

- 監修：園田 展人 (EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation Leader アソシエートパートナー、早稲田大学 客員教授)
- 著者 (代表)：目黒 文子 (EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation マネージャー、早稲田大学 招聘研究員)
- 2019年12月18日発行
- レポート：A4判、約800ページ
- 価格 ○書籍：600,000円+税 ○書籍とオンラインサービスのセット：900,000円+税
- 発行：日経BP

※本書は「人工知能の未来2019-2023」のアップデート版です。「人工知能の未来2020-2024」には、CD-ROMは付きません。

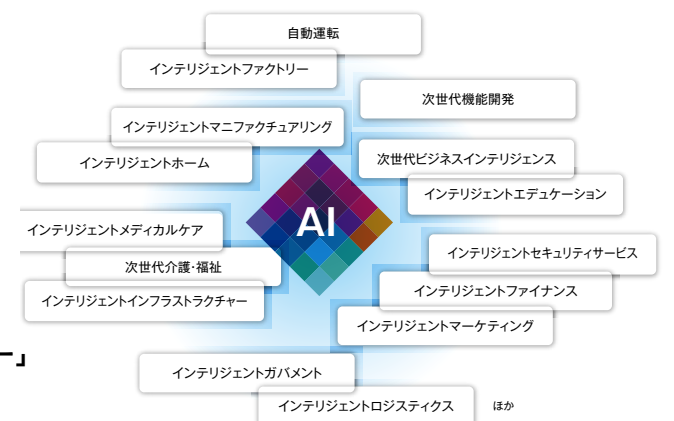


本書は、AIによる高度な予測や自動化によって、今後5年にどのような変化が起こるかを3つの視点で徹底分析、解説しています。最新版となる2020-2024版では新たに、AIによる業務の置き換えの現状と今後を「業務別・AI導入ロードマップ」として提示。人手不足やIoTビジネスへの対応など喫緊の課題に対してAIをどう活用していくのか。主要業務に起こる変化を図解し、本質を明らかにします。本書はAI適用に関する羅針盤と言えます。AIを組み込んだ経営計画、事業計画策定にぜひご活用ください。

新登場! 注目5業種「自動車、銀行、保険、通信、エネルギー」 AI導入ロードマップ【2020-2024】

- 2024年までの業務全般を予測
- AIが適用される業務を提示
- 予測の高度化、自動化で何が可能になるか
- AI関連技術と業界の全体動向を併記
- 先進企業の最新動向を詳細にレポート

どのような市場、ビジネスが誕生するのか 20産業、130の市場を徹底予測



無料で中身読めます。
詳細と申込はWEBで。



人工知能の未来2020-2024 [目次]

第1章 人工知能の俯瞰 1-1 人工知能の歴史 1-2 AIを巡る最新トレンド 1-3 人工知能の技術予測	3-2-3 マスカスタマイゼーション 3-2-4 移動工場によるオンデマンド製造 3-2-5 設計・製造熟練者のスキル形式知化 3-2-6 人間協調ロボット 3-2-7 拡張現実による作業支援システム 3-3 インテリジェントマニファクチュアリング 3-3-1 製品価値最大化サービス 3-3-2 予防保全ソリューション 3-3-3 オペレーション最適化サービス 3-4 インテリジェントホーム 3-4-1 知能化居住空間 3-4-2 知能化居住空間連携生活支援サービス 3-4-3 インテリジェントホーム保険 3-4-4 街まるごと知能化 3-4-5 ペット見守りサービス 3-4-6 知能化家電 3-4-7 家庭用パーソナルアシスタント 3-5 インテリジェントメディカルケア 3-5-1 バイタルデータによる健康管理 3-5-2 バイタルデータによる生命保険 3-5-3 遺伝子情報による健康管理 3-5-4 疾病の診断・治療サポート 3-5-5 精神疾患の診断サポート 3-5-6 仮想現実による精神疾患治療サポート 3-5-7 知能化病院・治療室 3-5-8 研究開発サポート 3-5-9 デジタルホスピタル 3-5-10 手術支援ロボット 3-6 次世代介護・福祉 3-6-1 コミュニケーション型見守りロボット 3-6-2 介護支援型ロボット 3-6-3 自立支援型ロボット 3-6-4 ロボットスーツ 3-6-5 インテリジェント補聴器 3-6-6 手振れ補正スプーン 3-6-7 インテリジェント車いす	3-7 インテリジェントインフラストラクチャー 3-7-1 インテリジェントエナジーインフラストラクチャー 3-7-2 インテリジェントウォーターインフラストラクチャー 3-7-3 インテリジェントグリーンインフラストラクチャー 3-7-4 メンテナンスレジリエンスサービス 3-7-5 セーフティサービス 3-7-6 メンテナンス熟練者のスキル形式知化 3-7-7 列車予防保全・故障予測システム 3-7-8 インテリジェント交通管理システム 3-8 インテリジェントガバメント 3-8-1 政策策定支援サービス 3-8-2 インテリジェントeガバメント 3-9 インテリジェントファーム 3-9-1 インテリジェントプレジジョンファーム 3-9-2 生育シミュレーションに基づく営農コンサルティング 3-9-3 ベテラン農家スキル伝承サービス 3-9-4 気象予測サービス 3-9-5 農業保険 3-9-6 スマート農機 3-9-7 自律型植物工場 3-10 インテリジェントロジスティクス 3-10-1 自動陸運 3-10-2 無人海運 3-10-3 無人空運 3-10-4 出荷予測サービス 3-10-5 需要予測サービス 3-10-6 物流ネットワーク最適化サービス 3-10-7 ピッキング効率化サービス 3-10-8 ドローンによる在庫棚卸し 3-10-9 自律型庫内物流ロボット 3-11 インテリジェントマーケティング 3-11-1 店舗における購買行動解析 3-11-2 屋外における購買レコメンデーション 3-11-3 店舗における接客ロボット 3-11-4 eコマースにおけるサイト分析 3-11-5 eコマースにおける購買レコメンデーション	3-11-6 拡張現実による販売促進ソリューション 3-11-7 広告物への拡張現実導入サービス 3-12 インテリジェントカスタマーサービス 3-12-1 完全自動オペレーターシステム 3-12-2 オペレーター回答候補支援システム 3-12-3 eコマースにおける接客ロボット 3-13 インテリジェントファイナンス 3-13-1 完全自動トレーディング 3-13-2 アナリストエージェントによる投資支援 3-13-3 信用診断的サポート 3-13-4 エージェントによるファイナンシャルプラン支援 3-13-5 ATM紙幣増減予測システム 3-13-6 音声認証や生体認証による自動決済システム 3-14 インテリジェントセキュリティ 3-14-1 テロ発生予測システム 3-14-2 災害情報支援システム 3-14-3 自律型軍事ロボット 3-14-4 自律型レスキューロボット 3-14-5 自律型極限環境ロボット 3-15 インテリジェントエデュケーション 3-15-1 パーソナライズドアダプティブラーニング 3-15-2 パーソナライズドカリキュラム設計支援 3-15-3 パーソナライズドキャリア設計支援 3-15-4 複合現実を使った企業研修支援 3-16 インテリジェントポリシング 3-16-1 治安解析システム 3-16-2 スマートセンシングによる不審者特定システム 3-16-3 自動投稿監視システム 3-16-4 サイバー攻撃自動検知システム 3-16-5 情報漏洩防止システム 3-17 次世代ビジネスインテリジェンス 3-17-1 フロントオフィス業務意思決定支援システム 3-17-2 バックオフィス業務支援システム 3-17-3 法務・財務意思決定支援 3-17-4 弁護士業務支援 3-18 インテリジェントメディアエンターテインメント	3-18-1 音楽プレイリストカスタマイズサービス 3-18-2 音楽自動制作サービス 3-18-3 ゲーム自動制作サービス 3-18-4 画像自動制作サービス 3-18-5 ストーリー自動制作サービス 3-18-6 字幕・吹き替え自動生成サービス 3-18-7 バーチャルシネマ 3-18-8 バーチャルコンサート 3-18-9 バーチャルスポーツ観戦サービス 3-18-10 バーチャルゲームコンテンツ提供サービス 3-18-11 バーチャルコンテンツ配信サービス 3-18-12 バーチャルコンテンツ開発プラットフォーム 3-19 インテリジェントトラベル 3-19-1 インテリジェントトラベルコンシェルジュサービス 3-19-2 トラベルエージェントロボット 3-19-3 仮想現実による観光促進支援 3-19-4 空港知能化システム 3-19-5 拡張現実によるナビゲーション 3-19-6 同時通訳アプリ 3-19-7 自動翻訳アプリ 3-20 次世代機能開発 3-20-1 新材料探索受託サービス 3-20-2 材料構造解析/シミュレーションソフトウェア提供サービス	4-10 金融・保険・不動産産業への影響
第2章 2024年までの業務別AI導入ロードマップ 2-1 自動車 2-2 銀行 2-3 保険 2-4 通信 2-5 エネルギー	3-7 インテリジェントインフラストラクチャー 3-7-1 インテリジェントエナジーインフラストラクチャー 3-7-2 インテリジェントウォーターインフラストラクチャー 3-7-3 インテリジェントグリーンインフラストラクチャー 3-7-4 メンテナンスレジリエンスサービス 3-7-5 セーフティサービス 3-7-6 メンテナンス熟練者のスキル形式知化 3-7-7 列車予防保全・故障予測システム 3-7-8 インテリジェント交通管理システム 3-8 インテリジェントガバメント 3-8-1 政策策定支援サービス 3-8-2 インテリジェントeガバメント 3-9 インテリジェントファーム 3-9-1 インテリジェントプレジジョンファーム 3-9-2 生育シミュレーションに基づく営農コンサルティング 3-9-3 ベテラン農家スキル伝承サービス 3-9-4 気象予測サービス 3-9-5 農業保険 3-9-6 スマート農機 3-9-7 自律型植物工場 3-10 インテリジェントロジスティクス 3-10-1 自動陸運 3-10-2 無人海運 3-10-3 無人空運 3-10-4 出荷予測サービス 3-10-5 需要予測サービス 3-10-6 物流ネットワーク最適化サービス 3-10-7 ピッキング効率化サービス 3-10-8 ドローンによる在庫棚卸し 3-10-9 自律型庫内物流ロボット 3-11 インテリジェントマーケティング 3-11-1 店舗における購買行動解析 3-11-2 屋外における購買レコメンデーション 3-11-3 店舗における接客ロボット 3-11-4 eコマースにおけるサイト分析 3-11-5 eコマースにおける購買レコメンデーション	3-7 インテリジェントインフラストラクチャー 3-7-1 インテリジェントエナジーインフラストラクチャー 3-7-2 インテリジェントウォーターインフラストラクチャー 3-7-3 インテリジェントグリーンインフラストラクチャー 3-7-4 メンテナンスレジリエンスサービス 3-7-5 セーフティサービス 3-7-6 メンテナンス熟練者のスキル形式知化 3-7-7 列車予防保全・故障予測システム 3-7-8 インテリジェント交通管理システム 3-8 インテリジェントガバメント 3-8-1 政策策定支援サービス 3-8-2 インテリジェントeガバメント 3-9 インテリジェントファーム 3-9-1 インテリジェントプレジジョンファーム 3-9-2 生育シミュレーションに基づく営農コンサルティング 3-9-3 ベテラン農家スキル伝承サービス 3-9-4 気象予測サービス 3-9-5 農業保険 3-9-6 スマート農機 3-9-7 自律型植物工場 3-10 インテリジェントロジスティクス 3-10-1 自動陸運 3-10-2 無人海運 3-10-3 無人空運 3-10-4 出荷予測サービス 3-10-5 需要予測サービス 3-10-6 物流ネットワーク最適化サービス 3-10-7 ピッキング効率化サービス 3-10-8 ドローンによる在庫棚卸し 3-10-9 自律型庫内物流ロボット 3-11 インテリジェントマーケティング 3-11-1 店舗における購買行動解析 3-11-2 屋外における購買レコメンデーション 3-11-3 店舗における接客ロボット 3-11-4 eコマースにおけるサイト分析 3-11-5 eコマースにおける購買レコメンデーション	3-11-6 拡張現実による販売促進ソリューション 3-11-7 広告物への拡張現実導入サービス 3-12 インテリジェントカスタマーサービス 3-12-1 完全自動オペレーターシステム 3-12-2 オペレーター回答候補支援システム 3-12-3 eコマースにおける接客ロボット 3-13 インテリジェントファイナンス 3-13-1 完全自動トレーディング 3-13-2 アナリストエージェントによる投資支援 3-13-3 信用診断的サポート 3-13-4 エージェントによるファイナンシャルプラン支援 3-13-5 ATM紙幣増減予測システム 3-13-6 音声認証や生体認証による自動決済システム 3-14 インテリジェントセキュリティ 3-14-1 テロ発生予測システム 3-14-2 災害情報支援システム 3-14-3 自律型軍事ロボット 3-14-4 自律型レスキューロボット 3-14-5 自律型極限環境ロボット 3-15 インテリジェントエデュケーション 3-15-1 パーソナライズドアダプティブラーニング 3-15-2 パーソナライズドカリキュラム設計支援 3-15-3 パーソナライズドキャリア設計支援 3-15-4 複合現実を使った企業研修支援 3-16 インテリジェントポリシング 3-16-1 治安解析システム 3-16-2 スマートセンシングによる不審者特定システム 3-16-3 自動投稿監視システム 3-16-4 サイバー攻撃自動検知システム 3-16-5 情報漏洩防止システム 3-17 次世代ビジネスインテリジェンス 3-17-1 フロントオフィス業務意思決定支援システム 3-17-2 バックオフィス業務支援システム 3-17-3 法務・財務意思決定支援 3-17-4 弁護士業務支援 3-18 インテリジェントメディアエンターテインメント	3-18-1 音楽プレイリストカスタマイズサービス 3-18-2 音楽自動制作サービス 3-18-3 ゲーム自動制作サービス 3-18-4 画像自動制作サービス 3-18-5 ストーリー自動制作サービス 3-18-6 字幕・吹き替え自動生成サービス 3-18-7 バーチャルシネマ 3-18-8 バーチャルコンサート 3-18-9 バーチャルスポーツ観戦サービス 3-18-10 バーチャルゲームコンテンツ提供サービス 3-18-11 バーチャルコンテンツ配信サービス 3-18-12 バーチャルコンテンツ開発プラットフォーム 3-19 インテリジェントトラベル 3-19-1 インテリジェントトラベルコンシェルジュサービス 3-19-2 トラベルエージェントロボット 3-19-3 仮想現実による観光促進支援 3-19-4 空港知能化システム 3-19-5 拡張現実によるナビゲーション 3-19-6 同時通訳アプリ 3-19-7 自動翻訳アプリ 3-20 次世代機能開発 3-20-1 新材料探索受託サービス 3-20-2 材料構造解析/シミュレーションソフトウェア提供サービス	第5章 2024年新規産業創出に向けて求められる 機能・技術 5-1 自動運転 5-2 インテリジェントファクトリー 5-3 インテリジェントマニファクチュアリング 5-4 インテリジェントホーム 5-5 インテリジェントメディカルケア 5-6 次世代介護・福祉 5-7 インテリジェントインフラストラクチャー 5-8 インテリジェントガバメント 5-9 インテリジェントファーム 5-10 インテリジェントロジスティクス 5-11 インテリジェントマーケティング 5-12 インテリジェントカスタマーサービス 5-13 インテリジェントファイナンス 5-14 インテリジェントセキュリティ 5-15 インテリジェントエデュケーション 5-16 インテリジェントポリシング 5-17 次世代ビジネスインテリジェンス 5-18 インテリジェントメディアエンターテインメント 5-19 インテリジェントトラベル 5-20 次世代機能開発
第3章 2024年におけるマーケットへの影響 新規産業の創出 3-1 自動運転 3-1-1 自動運転車 3-1-2 無人タクシーサービス 3-1-3 無人配送サービス 3-1-4 無人シャトルバスサービス 3-1-5 無人路線バスサービス 3-1-6 車載インフォテインメントコンテンツサービス 3-1-7 コンシェルジュサービス 3-1-8 テレマティクス保険 3-1-9 リアルタイム走行情報クラウドサービス 3-1-10 自動運転車用高精細3Dマップ 3-1-11 自動運転車用車載イメージングユニット 3-1-12 自動運転車用画像処理デバイス 3-1-13 自動運転車用制御ソフトウェア 3-1-14 自動運転車用感情エンジン 3-1-15 ドライバー状態検知システム 3-2 インテリジェントファクトリー 3-2-1 製造サプライチェーンの知能化 3-2-2 生産プロセスの知能化	第4章 既存産業への影響 4-1 自動車・輸送機器産業への影響 4-2 電子・電気・機械産業への影響 4-3 IT・メディア・コンテンツ産業への影響 4-4 医療・美容・健康産業への影響 4-5 素材・化学産業への影響 4-6 衣料・インテリア・雑貨産業への影響 4-7 農業・食品産業への影響 4-8 インフラ・建築・エネルギー産業への影響 4-9 流通・サービス産業への影響				

未来市場2019-2028

予測手法と算出根拠を示し これから10年の市場規模を定量化する

『未来市場 2019-2028』は、「まだ見えていない市場」の売上規模を定量化する市場予測レポートです。人工知能(AI)、IoT、ロボット、モビリティ、ブロックチェーンなど、技術革新と密接に関連するテーマを選定し、市場規模予測の前提条件や予測手法を明示しながら、各テーマについて今後10年間の市場規模(日本、世界)を予測します。

- 監修・著者：秦 充洋
(ミレニアムパートナーズ代表取締役/BDスプリントパートナーズ代表取締役CEO)
- 著者：片倉 健(ビタリー代表取締役ビジネスプロデューサー)、勝木 健太(戦略コンサルタント)



- 2018年12月25日発行
- レポート：A4判、248ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：600,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：900,000円+税
- 発行：日経BP

医療・健康ビジネスの未来 2019-2028

制度改定とテクノロジーの進化を背景に 立ち上がる新産業・新ビジネスの未来を描く

『医療・健康ビジネスの未来2019-2028』は、世界のメガトレンド、医療・介護の制度改定、テクノロジーの進化、社会や価値観の変化などを多面的に分析。今後10年間で激変する「医療機関」「医療機器」「薬局・ドラッグストア」「製薬」の分野における将来像を中心に、ICT、食品、保険、住宅、自動車、人材など、医療・健康分野で急成長する業界において新たに生まれるビジネスチャンスを示唆します。



- 著者：鶴谷 武親(早稲田大学 大学院経営管理研究科客員教授)
- 2019年1月31日発行 ■ レポート：A4判、224ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

モビリティの未来2019-2028

世界の実証実験と研究開発事例から ポストCASE時代のモビリティを見通す

『モビリティの未来2019-2028』は、ポストCASE時代のモビリティがどう進化するかを独自の手法で予測したものです。世界で実施されているモビリティ分野の実証実験からニーズを探り、日米欧の研究機関が注力するモビリティに関連する研究開発テーマから注目されるシーズ技術を調査し、抽出したニーズとシーズを掛け合わせることで、ポストCASE時代の20の未来像を描き出します。

- 監修：園田 展人(EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation Leader アソシエートパートナー、早稲田大学 客員教授)
- 著者(代表)：目黒 文子(EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovationマネージャー、早稲田大学 招聘研究員)



- 2019年3月28日発行
- レポート：A4判、226ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

ロボットの未来2019-2028

既成概念を破壊するロボットが誕生 あらゆる産業を巻き込み新市場を創出する

2035年、国内ロボット市場は現在の6倍の10兆円に迫ると予測されているようにロボットは目覚ましい進化を遂げ、あらゆる産業に革命的な変化を引き起こしていく可能性があります。『ロボットの未来2019-2028』は、鍵を握る11の機能と21の新ビジネスを予測します。さらに、現在ビジネスを変えつつある新たなロボット技術の概要と、内外の主なプレーヤーリストを掲載しています。

- 監修：園田 展人(EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation Leader アソシエートパートナー、早稲田大学 客員教授)
- 著者(代表)：目黒 文子(EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovationマネージャー、早稲田大学 招聘研究員)



- 2018年12月28日発行
- レポート：A4判、486ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

日本の未来2019-2028 都市再生/地方創生編

主役は民間企業、あらゆる業界に参入チャンス 未来の都市再生/地方創生ビジネスを予測する

高齢化や人口減少、都市への人口集中…『日本の未来2019-2028 都市再生/地方創生編』は、都市再生/地方創生の観点から、今後10年の日本の姿と社会課題を描きます。「公共機能の特化」、「社会リソースのシェア」、「人材や土地の集約・集積」、三つのトレンドを軸に、日本をアップデートするテクノロジーを解説し、「医療・健康」「スポーツ」「観光」「働き方・教育」など、今後立ち上がる新ビジネスを予測します。

- 監修：北川 正恭(早稲田大学名誉教授/元三重県知事)
伊藤 大貴(million dots代表/元横浜市議会議員)



- 2019年3月29日発行
- レポート：A4判、364ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

フードテックの未来2019-2025

テクノロジーで変貌するフード&クッキング領域 異分野が融合し、急成長する産業の未来を展望

本レポートは、①社会変化と産業構造の変化を「ベーストレンド」、②新しいビジネスを生み出す最新手法を「事業創出トレンド」とし、③誕生する新事業領域を「新アプルトrend」としました。この三つの潮流を分析し、16個のグローバルトレンドを提示し、41個の国内外事例を交え、食品や家電メーカー、流通などのフードテック中核産業、そしてITベンダーや医療・ヘルスケアなどの関連産業の未来を予測します。



- 監修：株式会社シグマックス
- 2018年12月25日発行 ■ レポート：A4判、294ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

ゲームチェンジングテクノロジー 2019

「世界最大のR&D投資」が向かう先 ゲームを一変させる次の先端技術を予測する

米国政府のR&D投資はざっと15兆円と日本のそのほぼ10倍、その5割近くを国防総省が支出しています。「世界最大のR&D投資」がどこに向かっているのか、それを知ることは一般の民間企業にとって欠かせません。『ゲームチェンジングテクノロジー2019』は、米国国防総省の投資先を中心に、まだ研究段階ではあるものの世界を変え得るテクノロジーを探ります。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 監修・著者：生天目 章（防衛大学校名誉教授）、井上 孝司（テクニカルライター）
- 著者：村田 和美（元陸上自衛隊通信保全監査隊長）、高橋 克彦（K.企画代表）
- 2018年12月28日発行 ■ レポート：A4判、216ページ
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

スポーツビジネスの未来 2018-2027

巨大産業化するスポーツの10年後と 未来のビジネスチャンスを示す

スマート化、アジアシフト、多様性の三つのメガトレンドを軸に、専門家が今後10年のスポーツビジネスを予測します。医療・健康や地方創生といった社会課題の解決とも密接に結び付きながら、その定義を拡大し、多くのステークホルダーを巻き込むことになるスポーツビジネス。スポーツビジネスの中核となる6分野の重要23テーマに加え、今後さらにスポーツと関係を深める七つの産業、そしてグローバルな動きについて未来像を提示します。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 監修：間野義之（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授/スポーツビジネス研究所 所長）、上野直彦（スポーツジャーナリスト）
- 2017年12月27日発行 ■ レポート：A4判、336ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格：300,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

IoTの未来2018-2027

製造、インフラ、医療、住宅、輸送の5領域で 未来に創出されるIoTビジネスを予測

バズワードとして一般に知られるようになって久しいIoT。しかし、実際にIoTにビジネスに結び付けている日本企業はまだまだ少ないのが実情です。どうすれば「儲かるIoTビジネス」が実現できるのでしょうか。本レポートは、現在の代表的なIoTビジネスの事例、グローバルにおけるIoTの政策、R&D動向を詳細に分析します。そして、製造、インフラ、医療、住宅、輸送の5領域で、未来に創出されるIoTビジネスを予測します。

- 監修・著者（代表）：園田 展人（EYアドバイザー・アンド・コンサルティング株式会社 Strategic Impact Unit Augmented Intelligence & Innovation Leader アソシエートパートナー、早稲田大学 客員教授）



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 2018年3月23日発行
- レポート：A4判、232ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表データを収録
- 価格 300,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

グローバル・メガトレンド 2017-2050

2050年までに世界はどう変わるのか 英エコノミスト・グループEIUの 長期世界予測レポート

英エコノミスト・グループのシンクタンク部門であるザ・エコノミスト・インテリジェンス・ユニット（EIU）の長期世界予測レポートです。これまでに蓄積された膨大な情報と新たな調査・分析結果を踏まえ、社会、経済、産業、技術などの各分野におけるグローバルな動き、世界の各地域、さらには日本企業とその動向を押さえておくべき43カ国の個別予測の結果も示すことで、戦略立案に欠かせないグローバルな視野と長期的展望を提供します。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 著者：EIU
- 2017年3月25日発行 ■ レポート：A4判、552ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格 800,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

人と仕事の未来2019-2028

AI大量失業は起きない。人手不足にはならない 10種類の人と仕事、新ビジネスの未来を予測

超高齢化と労働生産人口の減少、AI（人工知能）やロボットの進化によって「人と仕事」の姿は大きく変わっていきます。本レポートは、2028年の人、仕事、組織の姿を予測、10の業種ごとの未来像を描き出します。さらに、人と仕事の変化に伴って生まれる50の新ビジネスをワークプレイス（働く場）、ワーキングプロセス（働き方）、ソーシング（採用、調達）、エンパワーメント（能力強化）、マネジメント（人材管理）の5分野について提示します。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 編著者：日経BP総研
- 2018年12月25日発行 ■ レポート：A4判、256ページ
- 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格○書籍：300,000円+税
○書籍とオンラインサービスのセット：450,000円+税
- 発行：日経BP

未来事業2018 実践編

未来の事業をつくり出す 正しいプロセスとノウハウを網羅

企業の持続的成長のためには、将来の柱となり得る事業の創出や既存事業のビジネスモデルの改革が不可欠です。本レポートでは、事業開発の取り組みを実践し成功させるための事業コンセプト、ビジネスモデル、バリューチェーン、マネタイズモデルなど、各プロセスの最新理論や正しい進め方を分かりやすく解説します。また、DVDに収録したファシリテーションは、社内でのワークショップ実施や企業内研修、人材育成にご活用いただけます。



無料で中身
読めます。
詳細と申込は
WEBで。



- 監修・執筆：秦 充洋（ミレニアムパートナーズ 代表取締役）
- 執筆：小橋貴之（ミレニアムパートナーズ シニアコンサルタント）
- 2018年6月25日発行 ■ レポート：A4判、274ページ
- DVD：68分 ■ 書籍付属CD-ROM：本体に掲載された図表を収録
- 価格 300,000円+税 ※本商品にオンラインサービスはありません。
- 発行：日経BP

「すごい企画書」ができます。

日経BP総研 未来ラボ発行の分析・予測レポートから、必要なデータをオンラインで検索。
上司を納得させる「すごい企画書」を短時間で作るための「コンテンツ」と「機能」を提供します。

すごいコンテンツ

日経BP総研 未来ラボ発行の分析・予測レポート

社会、産業、技術の未来を予測し、新市場・新ビジネスの姿を提示します。

新タイトル続々登場!



すごい企画書



価値ある「コンテンツ」から欲しい情報をすぐに検索し、パワポに出力する「機能」。
「経営企画、事業開発、R&D、マーケティング」部門の皆様の「企画書」作りをサポートします。

- 経営ビジョン計画書
- 中長期事業計画書
- 新規事業提案書
- R&D計画書
- 市場規模推定報告書
- 競合分析資料
- M&A企画書
- 参入領域検討資料
- 新商品企画書
- 成長産業調査資料
- 自社技術ロードマップ
- 業界トレンド調査資料



※上記図版は、オンラインサービスのコンテンツから一部を抜粋し、掲載しています。

すごい機能

資料作成時間を大幅に短縮! レポート 検索・生成 オンラインサービス

入力した検索キーワードの「関連キーワード」「関連企業」が分かる

日経BP独自の機械学習エンジンで、入力した検索ワードに関連する「キーワード」や「企業」の検索結果を表示します。



図表の解説文を分析 図表だけを探せる

入力したキーワードと関連する図表をサムネイルで一覧表示。図表をクリックして拡大表示、詳細情報にアクセスできます。



「テキスト検索」「レポート閲覧」もすぐできる

入力したキーワードと関連するテキスト情報を瞬時に検索し、一覧表示。また、書籍と同じように目次に沿ってレポートの閲覧ができます。



そして、出典や説明文も一緒にボタン一つでパワポに出力

検索したテキスト情報や図表などレポートのコンテンツは、ボタンをクリックするだけでパワーポイント形式でダウンロードできます。

